

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ショウトクガクエン 学校法人 聖徳学園								
フリガナ大学の名称	ギフショウトクガクエンダイガク 岐阜聖徳学園大学 (Gifu Shotoku Gakuen University)								
大学本部の位置	岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地								
大学の目的	本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、建学の精神にのっとり宗教的情操を基調として、教養を培い、広い知識を授けるとともに、深く専門の諸学科を教授研究し、それぞれの学部の特色を発揮し、もって現代社会における有為な人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	建学の精神にのっとり、社会の要請に応じて、こころの教育を基盤とした、深い人間理解と高い倫理観を備えた看護専門職として社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	看護学部 [Faculty of Nursing] 看護学科 [Department of Nursing] 計	年	人	年次人	人	学士 (看護学)	年月 第1年次 平成27年4月 第1年次	岐阜県岐阜市柳津町 高桑西一丁目1番地	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	岐阜聖徳学園大学 教育学部学校教育課程〔定員増〕（80） 教育学部学校心理課程（廃止）（△50） ※平成27年4月学生募集停止 経済情報学部経済情報学科〔定員減〕（△50） 岐阜聖徳学園大学短期大学部 生活学科（廃止）（△120） ※平成27年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学部 看護学科	講義	演習	実験・実習	計	128単位			
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	看護学部 看護学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
人			人	人	人	人	人	人	
組	計	計	8	4	9	6	27	9	53
			(6)	(3)	(8)	(5)	(22)	(4)	(29)
の	既	教育学部 学校教育課程	40	22	8	0	70	0	95
		(40)	(22)	(8)	(0)	(70)	(0)	(95)	
概	設	外国語学部 外国語学科	12	2	4	0	18	0	45
		(12)	(2)	(4)	(0)	(18)	(0)	(45)	
要	分	経済情報学部 経済情報学科	9	14	0	0	23	0	29
		(9)	(14)	(0)	(0)	(23)	(0)	(29)	
分	計	計	61	38	12	0	111	0	169
		(61)	(38)	(12)	(0)	(111)	(0)	(169)	
要	合	計	69	42	21	6	138	9	218
		(67)	(41)	(20)	(5)	(133)	(4)	(199)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		58 人 (58)	5 人 (5)	63 人 (63)				
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	5 (5)	6 (6)				
	そ の 他 の 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)				
	計		61 (61)	10 (10)	71 (71)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校地は下記の学校と共用（面積等の詳細については別紙参照） 岐阜聖徳学園大学短期大学部 幼児教育学科第一部 200人 幼児教育学科第三部 150人 岐阜聖徳学園大学附属中学校 270人 岐阜聖徳学園大学附属小学校 270人 岐阜聖徳学園大学附属幼稚園 60人 校地専用面積14,968.08㎡ 利用期間：平成20年4月から20年 （貸与者：坂井田坂江地33名）			
	校舎敷地	0㎡	76,787㎡	0㎡	76,787㎡				
	運動場用地	0㎡	71,693㎡	0㎡	71,693㎡				
	小 計	0㎡	148,480㎡	0㎡	148,480㎡				
	そ の 他	0㎡	28,195㎡	0㎡	28,195㎡				
	合 計	0㎡	176,675㎡	0㎡	176,675㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	岐阜聖徳学園大学短期大学部と共用 幼児教育学科第一部 幼児教育学科第三部			
		39,389.77㎡ (39,389.77㎡)	10,054.69㎡ (10,054.69㎡)	4,461.98㎡ (4,461.98㎡)	53,906.44㎡ (53,906.44㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	74室	40室	32室	10室 (補助職員 4人)	0室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		申請学部全体			
		看護学部 看護学科		27 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体の共用分 ・図書 346,178冊 ・学術雑誌 329タイトル	
	看護学部	4108 [654] (3340 [576])	53 [17] (53 [17])	10 [10] (10 [10])	106 (106)	4581 (2816)	283 (136)		
	計	4108 [654] (3340 [576])	53 [17] (53 [17])	10 [10] (10 [10])	106 (106)	4581 (2816)	283 (136)		
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		2,286.40㎡		391	292,200				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		6,534.15㎡		野球場1面					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		375千	375千	375千	375千	—	—
		共同研究費等		2,500千	2,500千	2,500千	2,500千	—	—
		図書購入費	18,483千	5,795千	6,537千	7,183千	7,841千	—	—
	設備購入費	158,581千	103,857千	29,191千	2,850千	2,000千	—	—	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,700千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						
大 学 の 名 称		岐阜聖徳学園大学大学院							
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
大学院国際文化研究科 国際教育文化専攻	年	人	年次人	人	修士 (国際文化)	0.09	平成10年度	岐阜県岐阜市柳津町 高桑西一丁目1番地	
国際地域文化専攻	2	10	-	20	修士 (国際文化)	0.20	平成10年度	同上	
大学院経済情報研究科 経済情報専攻(前期)	2	10	-	20	修士 (経済)	0.10	平成16年度	岐阜県岐阜市中鶯 一丁目38番地	
経済情報専攻(後期)	3	3	-	9	博士 (経済情報)	0.22	平成16年度	同上	

大 学 の 名 称		岐阜聖徳学園大学						
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
教育学部	年	人	年次 人	人		倍		
初等教育課程	4	-	-	-	学士（教育）	1.25	昭和47年度	岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地
中等教育課程	4	-	-	-	学士（教育）	-	昭和51年度	同上
学校教育課程	4	250	-	1000	学士（教育）	1.25	平成21年度	同上
学校心理課程	4	50	-	200	学士（心理学）	1.23	平成19年度	同上
外国語学部								
外国語学科	4	150	-	600	学士（外国語）	0.98	平成14年度	同上
経済情報学部								
経済情報学科	4	200	-	800	学士（経済学）	0.76	平成10年度	岐阜県岐阜市中鶉一丁目38番地
大 学 の 名 称		岐阜聖徳学園大学短期大学部						
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
幼児教育学科 第一部	2	100	-	200	短期大学士（幼児教育）	1.20	昭和41年度	岐阜県岐阜市中鶉一丁目38番地
幼児教育学科 第三部	3	50	-	150	短期大学士（幼児教育）	1.24	昭和43年度	同上
生活学科						0.59		
生活学専攻	2	70	-	140	短期大学士（生活情報）（養護教諭）	0.56	昭和41年度	同上
食物栄養専攻	2	50	-	100	短期大学士（食物栄養）	0.65	昭和41年度	同上
附属施設の概要	<p>名 称 : 教育実践科学研究センター 目 的 : 学校及び社会における教育実践に関する科学的研究を推進し、その成果を教員養成の充実に資するとともに、教育実践の全般的発展に貢献すること 所 在 地 : 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地 設置年月 : 平成11年4月 規 模 等 : 建物 26.01㎡ (大学建物 羽島キャンパス 本館1階の1室)</p>							
	<p>名 称 : 経済情報研究所 目 的 : 経済・経営・情報等に関する研究を行うこと 所 在 地 : 岐阜県岐阜市中鶉一丁目38番地 設置年月 : 平成11年6月 規 模 等 : 建物 70㎡ (大学建物 岐阜キャンパス 3号館2階の1室)</p>							
	<p>名 称 : 仏教文化研究所 目 的 : 本学の建学の精神を体し、仏教文化及びその関連領域に関する総合的学術研究並びに国際的研究の交流を行い、学術研究の向上に寄与すること 所 在 地 : 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地 設置年月 : 平成12年4月 規 模 等 : 建物 20㎡ (大学建物 羽島キャンパス 本館2階の1室)</p>							
	<p>名 称 : エクステンションセンター 目 的 : 社会との交流を推進し、教育・研究のインフォメーションを図ること 所 在 地 : 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地 設置年月 : 平成16年4月 規 模 等 : 建物 15.05㎡ (大学建物 羽島キャンパス 6号館5階の1室)</p>							

教育課程等の概要															
(看護学部 看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
関連する科目	宗教学Ⅰ	1前	2			○								兼1	
	宗教学Ⅱ	1後	2			○								兼1	
	小計(2科目)		4											兼1	
基礎力	基礎セミナーⅠ	1前	1				○		7	4	8	6		共同	
	基礎セミナーⅡ	2前	1				○		7	4	8	6		共同	
	ICT基礎	1前	2				○		1						
	スポーツⅠ	1前	1					○						兼7 共同	
	スポーツⅡ	1後	1					○						兼7 共同	
	言語とコミュニケーション	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○							兼3 共同
		英語コミュニケーションⅡ	1後	1				○							兼3 共同
		英語コミュニケーションⅢ	2前		1			○							兼1
		英語コミュニケーションⅣ	2後		1			○							兼1
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	1前		1			○							兼1
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	1後		1			○							兼1
		ドイツ語Ⅰ	2前		1			○							兼1
		ドイツ語Ⅱ	2後		1			○							兼1
		フランス語コミュニケーションⅠ	1前		1			○							兼1
		フランス語コミュニケーションⅡ	1後		1			○							兼1
		フランス語Ⅰ	2前		1			○							兼1
		フランス語Ⅱ	2後		1			○							兼1
		中国語コミュニケーションⅠ	1前		1			○							兼1
		中国語コミュニケーションⅡ	1後		1			○							兼1
	中国語Ⅰ	2前		1			○							兼1	
中国語Ⅱ	2後		1			○							兼1		
ポルトガル語コミュニケーションⅠ	1前		1			○							兼1		
ポルトガル語コミュニケーションⅡ	1後		1			○							兼1		
人文科学	ジェンダー論	1前後・2前	2			○								兼1	
	映画学	1前後・2前	2			○								兼1	
	心理学	1前後・2前	2			○								兼2 共同	
	哲学	1前後・2前	2			○								兼1	
	日本文化論	1前後・2前	2			○								兼1	
社会科学	日本国憲法	1前後・2後	2			○								兼2 共同	
	家族と社会保障	1前後・2後	2			○								兼1	
	災害と危機管理	1前後・2後	2			○								兼1	
	キャリアプラン	1前後・2後	2			○								兼2 オムニバス	
	異文化論	1前後・2後	2			○								兼1	
自然科学	現代環境科学	1前後・2前	2			○			1						
	天文学	1前後・2前	2			○								兼1	
	数学	1前後・2前	2			○								兼1	
複合領域	レクリエーション	1前後・2後	2			○								兼1	
	食生活論	1前後・2後	1				○							兼1	
	岐阜学	1前後・2後	2			○								兼2 オムニバス	
	芸術論	1前後・2後	1				○							兼2 オムニバス	
	健康科学	1前後・2後	2			○								兼2 オムニバス	
小計(41科目)	—	10	48	0	—	—	—	7	4	8	6	0	兼39		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1前	2			○								兼1	オムニバス	
		解剖生理学Ⅱ	1後	1				○							兼1		
		解剖生理学Ⅲ	1後	1					○						兼2		
		生化学	1前	2			○			1							
		栄養学	1後	2			○			1					兼1		
	疾病の成り立ちと回復促進	微生物学(感染・免疫を含む)	1前	2			○			1						オムニバス	
		薬理薬剤学	1後	2			○								兼1		
		現代医療論	1前	1			○								兼1		
		病態治療学Ⅰ	1後	2			○								兼3		
		病態治療学Ⅱ	1後	2			○								兼3		
		病態治療学Ⅲ	2前	1			○								兼3		
		病態治療学Ⅳ	2前	1			○								兼3		
		遺伝情報学	2後	1		1	○								兼1		
		東洋医学	3前	1		1	○								兼1		
	代替補完療法	3前	1		1	○								兼2			
	人間理解	生涯発達論	1後	1			○			3		1				オムニバス	
		コミュニケーション論	1前	1				○		1	1		2			オムニバス 共同(一部)	
		クリニカルコミュニケーション	3前	1				○			1					共同(一部)	
		看護の対象理解論	2前	1				○		1		2				共同(一部)	
		家族社会学	2後	2			○			1						共同(一部)	
		日本手話	1前	1		1		○								兼2	
		臨床心理学	3前	2			○									兼1	
	社会と健康支援	公衆衛生学と法規	2前	2			○			1						オムニバス	
		保健統計学	2後	2			○			1							
		疫学	2後	2			○			1							
		保健医療福祉行政論	2後	2			○								兼1		
		社会福祉概論	2前	1			○								兼1		
		医療安全	2前	1			○								兼2		
ボランティア活動		2前	1				○		1	1	1				共同		
多職種連携論		1前	1			○			2						オムニバス		
退院支援論		3前	1			○			2		2				オムニバス		
小計(31科目)	—	29	15	0	—	—	—	7	3	5	2	0	兼28				
専門科目	基礎看護学	看護学概論	1前	2			○			1						オムニバス	
		生活援助技術論	1後	2			○				1	1					
		診療援助技術論	2前	2			○				1	1	1				
		生活援助技術演習	1後	1				○			1	2	2				共同
		診療援助技術演習	2前	1				○			1	2	2				共同
		フィジカルアセスメント	1後	1				○			1	2	2				共同(一部)
		看護倫理	4後	1			○										兼1
		SPP技術演習	2後	1				○			1	2	2				共同
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1					○	1	1	4	5	4			共同
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2					○		2	8	5	8		共同		
	成人看護学	成人看護学概論	2前	2			○			1						オムニバス	
		成人看護学援助論Ⅰ	2後	1				○		1		2	1				オムニバス 共同(一部)
		成人看護学援助論Ⅱ	3前	1				○		1		1	1				オムニバス 共同(一部)
		がん看護援助論	3前	2			○			1		1					オムニバス
成人看護学実習		3後	4					○	1		2	1	2		共同		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	老年看護学概論	2前	2			○			1							オムニバス 共同(一部)	
	老年看護学援助論Ⅰ	2後	1				○		1				1			オムニバス 共同(一部)	
	老年看護学援助論Ⅱ	3前	1				○		1				1			オムニバス 共同(一部)	
	老年看護学実習Ⅰ	2前	1					○	1	1	1	1				共同	
	老年看護学実習Ⅱ	3後	3					○	1		1					共同	
	小児看護学	小児看護学概論	2前	1			○			1	1	1					オムニバス 共同(一部)
		小児看護学援助論Ⅰ	2前	1				○			1	1		1			オムニバス 共同(一部)
		小児看護学援助論Ⅱ	2後	1				○			1	1		1			オムニバス 共同(一部)
		小児看護学援助論Ⅲ	3前	1				○			1	1		1			オムニバス 共同(一部)
		小児看護学実習Ⅰ	2前	1					○	1	1	1		1			共同
		小児看護学実習Ⅱ	3後	1					○	1	1	1		1			共同
	母性看護学	母性看護学概論	2前	2			○			1							オムニバス 共同(一部)
		母性看護学援助論Ⅰ	2後	1				○		1		1	1				オムニバス 共同(一部)
		母性看護学援助論Ⅱ	3前	1				○		1		1	1				オムニバス 共同(一部)
		母性看護学実習	3後	2					○	1		1	1				共同
	精神看護学	精神看護学概論	2前	2			○			1							兼1 オムニバス
		精神看護学援助論Ⅰ	2後	1				○		1		1					共同(一部)
		精神看護学援助論Ⅱ	3前	1				○		1		1					共同
		精神看護学実習	3後	2					○	1		1		1			共同
	在宅看護論	在宅看護概論	2後	2			○			1	1						オムニバス
		在宅看護援助論	3前	2				○			1		1				オムニバス 共同(一部)
		在宅看護論実習	3後	2					○		1		1	1			共同
	看護の統合	研究の基礎	3前	1			○			3							オムニバス
		卒業研究	4通	2				○		8	4	9	3				共同
		特別支援教育・看護合同演習	4前	1				○		1	1	1	1	1			兼3 オムニバス 共同(一部)
		看護管理論	4前	1				○									兼1
		災害看護論	4後		1			○			1						
		国際看護論	4前		1			○			2						オムニバス
		海外研修	3前		1				○		2						共同
		看護教育論	4後		1			○			1						
		救急看護	4前		1			○					1				
		SPP技術指導演習	4後		1				○	2	1	3	1	4			共同
		多職種連携実践演習	4後		1				○	2	1	3	2	4			共同
		終末期看護実習	4前		1					3	1	4	2	1			共同
		継続看護実習	4前		1					1		5	6	4			共同
	統合看護実習	4前		2					4	3	8	5				共同	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2後	2			○				1	1					オムニバス	
	公衆衛生看護学活動展開論Ⅰ	3前		1			○			1	1	1				オムニバス 共同(一部)	
	公衆衛生看護学活動展開論Ⅱ	4前		1			○			1	1	1				共同(一部)	
	学校保健	3前		2			○									兼1	
	養護概説	2前		2			○									兼1	
	健康相談活動	3前		2			○									兼1	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前		1				○		1	1	1				共同	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4後		3				○		1	1	2	1			共同	
	公衆衛生看護学実習Ⅲ	4後		1				○		1	1	1				共同	
小計(60科目)			67	20	0		—		8	4	9	6	9			兼7	
専攻科	教師論(中等)	2前			2	○										兼1	
	教育基礎論(中等)	2前			2	○										兼1	
	教育心理学(中等)	2前			2	○										兼1	
	発達心理学(中等)	2後			2	○										兼1	
	障害児教育学(中等)	4前			2	○										兼1	
	教育社会学(中等)	4後			2	○										兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職科目	教育の社会制度論（中等）	2後			2	○									兼1
	教育行政学（中等）	4前			2	○									兼1
	教育課程論（中等）	3前			2	○									兼1
	道德教育の指導法（中等）	2後			2	○									兼2 共同
	特別活動の指導法（中等）	2後			2	○									兼1
	教育情報方法論（中等）	3前			2	○									兼2 共同
	教育評価（中等）	4前			2	○									兼1
	生徒指導論	3前			2	○									兼1
	教育相談（中等）	3前			2	○									兼1
	臨床心理学（中等）	4後			2	○									兼1
	養護教諭実習特講（事前事後）	4前			1	○									兼1
	養護教諭実習	4前			4			○							兼1
	教職実践演習（養護教諭）	4後			2		○								兼4 オムニバス
小計（19科目）			0	0	39	-			0	0	0	0	0		兼16
合計（153科目）		-	110	83	39	-			8	4	9	6	9		兼84
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
4年以上在学し、建学の精神に関する科目から必修科目4単位、教養基礎科目から必修科目10単位と選択科目11単位以上（選択必修科目1単位含む）、専門基礎科目から必修科目29単位と選択科目4単位以上（選択必修科目2単位含む）、専門科目から必修科目67単位と選択科目3単位以上（選択必修科目1単位含む）を修得し、合計128単位以上を修得すること。						1 学年の学期区分			2期						
						1 学期の授業期間			15週						
						1 時限の授業時間			90分						

別記様式第2号（その3の1）

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
建学の精神に関する科目	宗教学Ⅰ	現代社会には、実に様々な宗教が存在しているが、真実の宗教とは、人間の存在意義や人生の根本的な方向性を指し示し、日々の生活の中で直面する悩みや苦しみを乗り越えさせるはたらきをもつものである。本講義は、世界宗教や各地の民族宗教を概観することよりはじめ、特に仏教の精神を学ぶ。本学の建学の精神である仏教精神は、インドのカースト制を否定するなど、生命の平等性を示すものであり、「縁起」、「諸行無常」などの思想によって、生命のつながりとはかなさを知らせ、その尊厳性を示すものである。これらを学ぶことは、人類共通の「生命とは何か」といった命題の答えを探ることにもなるだろう。		
	宗教学Ⅱ	本講義は日本の宗教、特に神道と仏教について概観する。なかでも、本学の建学の精神と関わりの深い聖徳太子の仏教信仰と、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の仏教思想については、詳しく考察する。本学の建学の精神とゆかりの深い聖徳太子の仏教信仰は、あらゆる生命の平等性に目覚め、他者に寛容な心を持ち、他者の救済を目指すことを志向するものであり、同じく親鸞聖人の仏教思想も、あらゆる生命を救う阿弥陀仏の心に気づいて、自らを律し、浄土往生、即ち生死を超えた理想の心の実現を目指すものである。また、現代の真宗門徒の仏教精神に基づいたターミナルケアへの取り組み「ビハークラ活動」についても紹介する。これらを学ぶことは、日本人の「生死観とは何か」といった命題の答えを探ることにもなるだろう。		
教養基礎科目	基礎力	基礎セミナーⅠ	大学生に必要なとされる基本的学習技能、学習態度を身につけ、大学生活への早期適応ができることを目指して、大学生活に必要な基礎的能力を修得する。将来の進路を踏まえて、学習目標を達成するための4年間の学習計画の立案、レポートの書き方、討論やプレゼンテーションの方法、及び学習を進めるための資源の活用法、情報の管理について学習し、大学生に必要な学習技能、学習態度、学習の方法を学ぶ。これらの学習を通して、主体的・自律的学習力を身につけるための基盤を形成する。	共同
		基礎セミナーⅡ	1年次に引き続き、大学生に必要な学習技能、学習態度、学習の方法をさらに深く学び、担当教員が提示したテーマに基づき、小グループで学習を進める。また、看護職を目指す者として必要な基礎となる、人と接する態度、礼節、自己管理、自己責任、規範意識を理解し、他者を尊重した態度を養う。ディスカッションやグループワークを通して、コミュニケーション能力を高めるためのリーダーシップ・メンバーシップのあり方を体験的に学ぶ。	共同
		ICT基礎	看護におけるさまざまな教育活動を担う場合に必須のInformation & Communication Technology (ICT) について、コンピュータやインターネットを道具として活用するための基礎的技術と、主に医療系の「情報」を扱うための手法を習得します。本科目では、ICTを情報収集・情報発信のツールとして位置づけ、単にパソコンの操作方法を学ぶのではなく、膨大な情報から信頼性のある情報を探知する手法、そこで得られた情報を適切に表現するための手法等を修得する。	
		スポーツⅠ	それぞれのスポーツ種目の楽しさを知り、自己のスポーツライフを振り返ったり、生涯スポーツの実践に向けた基礎的学習を行ったりすることができる。ボールゲーム、ラケットゲーム、レクリエーションスポーツを幅広く経験し、それぞれの特性、ルールやマナー、技術などを学ぶ。複数の種目の基本的動作やスキルを習得し、ゲームの状況に応じて活用する。	共同
		スポーツⅡ	それぞれのスポーツ種目の楽しさを知り、自己のスポーツライフを振り返ったり、生涯スポーツの実践に向けた基礎的学習を行ったりすることができるようにする。実践されることが多いラケットスポーツ、レクリエーションスポーツを経験し、それぞれの特性、ルールやマナー、技術等を学ぶ。複数の種目の基本的動作やスキルを習得し、ゲームの状況に応じて活用する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養基礎科目	言語とコミュニケーション	英語コミュニケーションⅠ	日常生活の場面設定を通して、多様な言語活動の中から日常的な語彙・表現をどのように使っていくのかを身につけていく。コミュニケーションは言語だけでなく言語外の要素も大いに関わってくることを念頭に、より多くの人と簡単な会話練習を通して英語で自分の考えを伝え、相手の意見を理解できるようにする。英語を用いて様々な会話の行われる場面設定の中で、どのような発話・行動が適切であるのか、なぜそのような表現・考え方をするのかを知識として吸収しながら、英語でのコミュニケーションを円滑に行えるようにする。	共同
		英語コミュニケーションⅡ	前期の英語コミュニケーションⅠに引き続き、大学生活の日常的な場面設定から基本的な英語でのコミュニケーションを行いながら、さらに英語による会話力を磨き・定着させていく。英語を用いて様々な会話の行われる場面設定の中で、どのような発話・行動が適切であるのか、なぜそのような表現・考え方をするのかを知識として吸収しながら、英語でのコミュニケーションを円滑に行えるようにする。	共同
		英語コミュニケーションⅢ	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱで培った英語による基本的なコミュニケーション能力を通して、英語を話すことに自信を持てるようにする。また、英語の運用能力の実力判定に利用されている各種英語検定試験に合格することで、社会での活躍の場を増やしていく。聴解力、読解力、文法力、インターネットのニュースの速読等のトレーニングを通して英語力の向上を目指す。	
		英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅠ～Ⅲで培った英語による基本的なコミュニケーション能力を通して、英語を話すことに自信を持てるようにする。また、各種英語検定試験のテストフォーマットに慣れるとともに、リスニング力、語彙力などの能力を向上させる。聴解力、読解力、文法力、インターネットのニュースの速読等のトレーニングを通して英語力の向上と同時に国際的な視野を広げる。	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	ドイツ語の基礎的表現力の涵養を目的とする。未習外国語としてのドイツ語を、コミュニケーションをとるということを目標としながら勉強していく。そのための単語の読み方であり、文法規則であり、表現の練習であることを念頭に置きながら学んで欲しい。この授業を基礎としながら2年次終了時にはドイツ語検定4級程度の力をつけることを目標とする。	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	ドイツ語の基礎的表現力の涵養を目的とする。前期「ドイツ語コミュニケーションⅠ」の内容を引き継ぐ。未習外国語としてのドイツ語を、コミュニケーションをとるということを目標としながら勉強していく。そのための単語の読み方であり、文法規則であり、表現の練習であることを念頭に置きながら学んで欲しい。この授業を基礎としながら2年次終了時にはドイツ語検定4級程度の力をつけることを目標とする。なお原則として、前期のドイツ語コミュニケーションⅠをとらずに後期からの履修は認めない。	
		ドイツ語Ⅰ	1年次に学んだ内容を基礎としながら読解を中心にドイツ語力の向上を目指す。1年次同様、演習形式の授業になる。単語の確認、発音、文章読解、文章表現の練習を重ねていく。	
		ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰの継続内容で、演習形式の授業になる。単語の確認、発音、文章読解、文章表現の練習を重ねていく。なお原則として、前期のドイツ語をとらずに後期からの履修は認めない。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語とコミュニケーション 教養基礎科目	フランス語コミュニケーションⅠ	フランス語による日常的な会話表現また身近な文章語表現を身につけ応用するためには、文法の知識が欠かせません。そのため、基礎文法事項をひとつひとつ追いつ追いつながら、フランス語の仕組み全体を概観できるようになることが第一の目標となります。その際、正しい発音や豊かな語彙の習得も必要となります。また、英語圏以外の文化への理解を深めることも目的の一つとなります。使用するテキストの趣旨に従い文法事項、練習問題等を順次扱ってゆきます。その際、音声教材等を適宜使用することにより、生きたフランス語に触れる機会を設け授業を進めます。今年度使用のテキストは文法中心の内容に見えますが、扱われている例文・問題文は現実味があり、日常表現として役立つものとなっています。	
	フランス語コミュニケーションⅡ	フランス語による日常的な会話表現また身近な文章語表現を身につけ応用するためには、文法の知識が欠かせません。そのため前期に引き続き、基礎文法事項をひとつひとつ追いつ追いつながら、フランス語の仕組み全体を概観できるようになることが第一の目標となります。その際、正しい発音や豊かな語彙の習得も必要となります。また、英語圏以外の文化への理解を深めることも目的のひとつとなります。使用するテキストの趣旨に従い会話表現、文法事項、練習問題等を順次扱ってゆきます。その際、音声教材等の使用により、生きたフランス語に触れる機会を設け授業を進めます。	
	フランス語Ⅰ	一年次に引き続き、会話および基本的な文章語に必要なフランス語基礎文法を、正確な発音や日常的な表現と共に習得することを目的とします。使用するテキストの趣旨に従い会話表現、文法事項、練習問題等を順次扱ってゆきます。その際、音声教材を使用することにより、生きたフランス語に触れる機会を設け授業を進めます。	
	フランス語Ⅱ	前期に引き続き、会話および基本的な文章語に必要なフランス語基礎文法を、正確な発音や日常的な表現と共に習得することを目的とします。使用するテキストの趣旨に従い会話表現、文法事項、練習問題等を順次扱ってゆきます。その際、音声教材等を使用することにより、生きたフランス語に触れる機会を設け授業を進めます。	
	中国語コミュニケーションⅠ	毎回会話を行い、発音中心にすすめ、テキストを通して、言う・聞く・読む・書くとの四つの面をバランスよく練習します。中国語をはじめて習う学生が対象です。前期は発音からはじめ、簡単な自己紹介や挨拶をできることが目標です。	
	中国語コミュニケーションⅡ	毎回会話を行い、発音中心にすすめ、テキストを通して、言う・聞く・読む・書くとの四つの面をバランスよく練習します。後期は基本的な表現をマスターし、初歩的な中国語でコミュニケーションができるように目標とする。	
	中国語Ⅰ	初級中国語の基本文法を学習し、日常会話に必要な話す力、聞く力を身につけます。1年生で学んだ入門中国語を基礎に、日常会話に必要な初級中国語の基礎固めをします。各課1回目の授業では、単語・文法項目を確認した後、本文の意味の確認、発音練習を行う。第2回目は、リスニングを中心としてその課の学習内容を復習します。各課の単語小テストは、各課学習後、次の課の最初の授業で行います。	
	中国語Ⅱ	初級中国語の基本文法を学習し、日常会話に必要な話す力、聞く力を身につけます。前期に続いて1年生で学んだ入門中国語を基礎に、日常会話に必要な初級中国語の基礎固めをします。各課1回目の授業では、単語・文法項目を確認した後、本文の意味の確認、発音練習を行う。第2回目は、リスニングを中心としてその課の学習内容を復習します。各課の単語小テストは、各課学習後、次の課の最初の授業で行います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養基礎科目	言葉とコミュニケーション	ポルトガル語コミュニケーションⅠ	この授業では、私たちの身近に暮らすブラジル出身の人々の文化的背景を理解し、基本的なコミュニケーションができるようになることを目的としています。 初対面のブラジル人に自己紹介ができるように、自分の名前、出身地、職業、趣味や家族のことを伝え、相手にも質問できることを目指します。ポルトガル語コミュニケーションⅠでは、ブラジル日本移民の歴史について学びます。	
		ポルトガル語コミュニケーションⅡ	この授業では、私たちの身近に暮らすブラジル出身の人々の文化的背景を理解し、基本的なコミュニケーションができるようになることを目的としています。 ポルトガル語コミュニケーションⅠの学習内容を踏まえ、予定、願望、可能、必要などの基本表現をペアやグループに分かれて繰り返し練習します。 ポルトガル語コミュニケーションⅡでは、日本で「デカセギ」ブラジル人の直面する様々な問題について理解を深めます。	
	人文学	ジェンダー論	「男性とは」「女性とは」について、主に心理学的な見地から考察していきます。まず、男性性や女性性について、発達のどのよう意識化されていくのかについて理解していきます。そして、文化や社会によって男性性や女性性がどのように価値づけられているのかについて考察していきます。また、性同一性障害などセクシャルマイノリティの人びとについての理解も深めていきます。	
		映画学	一般に映像の利点はその面白さと分かりやすさにあり、映像を利用することで学習と理解が帰納的になる。本講義では、アメリカ映画を中心にいくつかの名画についてその映画の内容や映画で使用されている名セリフ（言語表現）を通して異文化について学習し、登場人物から人生観についても学ぶ。前半は、共通の名画についてその映画の内容、文化的背景、英語表現等を学習するが、後半は学生が選択した名画について、グループで調査・発表して、学生間での評価（ピア・レビュー）も取り入れたグループ学習も行う。	
		心理学	コミュニケーションや他者理解の仕方が友人関係や親密な関係に与える影響について概説する。また、他者と上手く付き合えない人の特性要因について考える。他人に苦情を言って自己の感情を満足させている人（クレマー）問題や、他者に対する援助要請や援助行動の問題について考察する。日本的なコミュニケーションやソーシャルメディアが対人関係に及ぼす影響についても概説する。	共同
		哲学	「自由」と言うとき、私たちは、「麻薬を使用する自由」や「援助交際をする自由」などを想像し、だから「自由」は規則によって規制されなければならない、規則の範囲の中での「自由」こそが望ましい、と考えることに慣れていきます。しかし、かつて「自由か死か」として人々が戦い、勝ち取ってきた自由とはそのようなものではありません。むしろ、「麻薬を使用したい」「援助交際を行いたい」などという様々な欲望から解放されて、本当に正しいことをなすことこそが、「自由」として尊ばれてきたのです。自由の真の意味とは何か、そしてなぜ、それが人間の尊厳にかかわるのか、またなぜ「自由」が現在のように否定的に考えられるようになったのかを、根本的に考えてみたいと思います。	
		日本文化論	現代社会では、自国の文化を正しく理解し自信をもって相手に伝えることができる真の国際人が求められている。とりわけ日常生活の中で、「しつけ（躾）る」とは、礼儀作法を身につけさせることであるが、生活環境に対応して深く関わり変化をしてくれている。日本文化は、実は生活をする知識であり、伝統文化のこころを日常に活かすきっかけとなっていることを再発見し、同時に外国に対して、日本人としての誇りを構築するものである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会科学	日本国憲法	日本国憲法は、基本原理として、国民主権、平和主義、基本的人権をうたっております。授業では、とくに基本的人権について学びます。その「憲法上の権利」は、一般的に、思想・良心の自由や表現の自由を例とする自由権、生存権や教育を受ける権利を例とする社会権、選挙権を例とする参政権、そして裁判を受ける権利や国家賠償請求権を例とする受益権の4つに分類されています。この分類の再検討をふくめ、「憲法上の権利」について学んでいきます。	共同
	家族と社会保障	社会保障制度のあり方を検討することは社会にとっても個人にとっても重要な課題であるが、これを体系的に学ぶ機会が少ないのが現状である。この授業では医療保険と年金保険を素材としてその基本的な仕組みを学ぶ。社会保障について学ぶことは、日本における家族と雇用と国家との関係を学ぶことでもある。これからの生活設計を考えるきっかけとするとともに、一人の有権者として今後の社会保障政策について自分なりの意見を持てるようになることがこの授業の目標である。	
	災害と危機管理	本講義では自然災害と、それに対する予防・回避と発生した際の損害を最小限に食い止める危機管理について学ぶ。前半部では、世界各地の気候の特徴を学習し、そこでみられる大雨、暴風や竜巻に伴う風水害、雪害、森林火災、干ばつ、火山噴火などについて、成因を含めて具体的事例をもとに考察する。後半部では、それらに対する危機管理について、地域での対策、住民意識、救急看護の現場、ボランティア活動の実態、学校での防災管理などについて考察を進める。	
	キャリアプラン	(概要) 社会の一般論や具体的な企業活動から「ビジネス」「経済社会で、あるべき人材像」「現状と将来」などについて学ぶ。 受講者本人が社会の一員として、職業についてのビジョンを描くことのできるための基礎を学ぶ。 (オムニバス方式全15回) (37 河野公洋/11回) 社会人として必要と考えられる「ビジネス・経済」の基礎について理解する。 (48 大成利広/4回) 身近な社会環境の現状と社会人として仕事を行っていくうえでの「社会科学的視座」を理解する。	オムニバス方式
	異文化論	「ことばは文化であり、文化はことばである」といわれるように、ことばと文化は密接に関係している。本講義では英語母国語話者とのコミュニケーションにおいて障害となりうる文化的要因を考え、それを乗り越えて、より円滑なコミュニケーションを成立させるための方法を教授する。言語学的、文化的観点から日本語と英語の相違点を掘り、個々の事例に基づいて講義と演習を行なう。	
自然科学	現代環境科学	この授業は“環境と生活を科学する”をコンセプトにしている。ここでいう科学は自然科学のことを指している。“環境を科学する”では、地球誕生から現在までの環境に至るまでの流れ、人類がCO ₂ 問題など地球環境に与えた影響、人類の環境との関わりや地球環境の保全策などを解説する。“生活を科学する”では、食と食の安全と健康維持・増進に関する事柄を科学的な観点から学び、身のまわりにあふれている疑似科学について解説する。	
	天文学	私たちはなぜ星を見上げるのでしょうか？なぜ宇宙を探求するのでしょうか？それは、宇宙に私たちのルーツがあるから。今から138億年前にインフレーションから宇宙が誕生し、46億年前に、宇宙で生成された元素が集まって、私たちの太陽とともに地球が生まれました。そして35億年前に最初の生命が海の中で産声を上げ、進化と絶滅を繰り返しながら、人類へと受け継がれていったのです。つまり天文学は、宇宙の歴史・成り立ちを研究し、私たちは何者なのかを探る旅。この授業では、宇宙に関する幅広い知識を基礎から、楽しくわかりやすく学習します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然科学 教養基礎科目 複合領域	数学	私たちの生活の中に現れている種々の社会事象, 自然現象の中から, その背景に数学が用いられている題材 (たとえば, 暦, 紙判, 音階など) を取り上げて, それを数理的及び数学史的に考察するとともに, 数学も1つの文化であるから, 数学文化の持っている楽しさや面白さを経験でき, 生活を精神的に充実したものにできるように授業を展開する。	
	レクリエーション	様々な遊びのメニューと技術を持ち, 人と人との楽しい交流を促進し, 楽しさの体験を多くの人に提供することができる資格「レクリエーション・インストラクター」を取得するために, レクリエーションの意義や知識など基礎理論を学習し, レクリエーションを活用した対象者支援の考え方やプログラムの企画方法などを身につける。また, 集団遊びや自然体験活動などのレクリエーションを自らが経験することをとおして, 子どもの遊びを豊に展開するために必要な知識や技能を習得する。	
	食生活論	栄養あるいは食生活は, 生活習慣病など疾病の予防や健康の維持・増進だけではなく, 円滑な社会生活を行い, 生活の質を高めるためにも重要である。しかし, 特に現代の若者は朝食を欠食するなど食事の規則性やコンビニ利用による食の簡便化, エネルギーや脂質の過剰摂取など多くの問題を抱えている。 本講では, 日本人の食生活の現状と問題点を明らかにするとともに, 必要な栄養学の基礎的内容を平易に解説する。また, 毎日の食生活に取り入れることのできる調理の方法についても実習を行い, 食生活を充実させるための実践的能力を習得する。	
	岐阜学	(概要) 岐阜の歴史・文化を学びつつ, 地域の将来像を探求する。 (オムニバス方式/全15回) (39 秋山晶則/8回) 「飛山濃水」といわれる対照的な自然環境のもと, 独自の社会・文化を育んできた飛騨・美濃両国の特質と相互関係, 岐阜県統合後の課題等について検討する。 (40 伊藤 薫/7回) 20世紀から現在までの岐阜県の推移を紹介する。その内容は, ①統計資料による人口, 経済の推移, ②地域活性化の事例紹介である。最後に, 21世紀の岐阜県の姿を人口予測と産業発展から展望したい。	オムニバス方式
	芸術論	(概要) 書道と陶芸についての講義と演習を通して, 芸術について考察する。 それぞれの分野の学びから, 芸術に対する深い造詣を養うとともに, 表現することの意味と価値について理解を深める。 (オムニバス/全15回) (41 早矢仕晶子/8回) 陶芸作品の鑑賞と民芸活動について学ぶことで, 美的活動の意味と広がりについて考察を深め, 演習として陶芸制作をおこなう。陶芸制作においては, 土の養生についてその特徴, 陶芸制作の工程の重要性, 職人の知恵が詰まった道具についてなど実践から学ぶ。 講義で学んだことを自身の制作に反映させ, 芸術に対する新たな視点を持つ。 (72 高橋誠治/7回) 毛筆で文字を書くことにより, 思考力や想像力および文字感覚を養い文字に対する関心を深め文字を尊重する態度を育てる。さらに普段使い慣れている用具用材の墨・筆・紙とは異なる釉薬等を使用し, 新たな筆致を体験しながら, 平面ではない局面やカップの底等に, 文字や言葉を書き入れる。生活の中の書として「絵皿かマグカップ」に文字を書き, 世界に一つだけの作品を制作する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養基礎科目	複合領域 健康科学	<p><概要>「笑い」には、生理的・心理的・社会的な効用があると言われている。笑いの効用について、笑い与健康との関係に関する知識を身につけ、「笑いヨガ」という手法を通じて笑いの持つ非言語的コミュニケーションの可能性を探求する。</p> <p>講義内容は、笑い与健康の歴史的考察、および現在の笑い与健康に関する文献的考察や「笑いヨガ」の概念等である。こころと身体との関係、自分と他者の関係、および自分を見つめなおすことを通して、人が自分らしく心豊かに生きるためのコミュニケーションについて体験学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (⑩池田由紀/8回)</p> <p>「笑いヨガ」の成立背景とその概念、「笑いヨガ」の目的・方法について学習する。</p> <p>また、笑い与健康の歴史的背景、現在までに明らかになっている笑い与健康に関しての生理的側面、心理的側面、社会的側面について文献的考察を行い、学びを深める。</p> <p>(⑨坂本智琴/7回)</p> <p>人が自分らしく心豊かに生きるための、笑いの体験・実践を通して、コミュニケーションの可能性を創造する体験型学習によって学びを深める。</p>	オムニバス方式
		<p>人と直接かかわる看護学を学ぶためには、まず人体の構造と機能についての基本的知識が必要である。解剖生理学Ⅰにおいては、細胞と組織、骨と筋、呼吸器と循環器および消化器の正常な構造について学ぶ。看護の初学者がイメージしやすいように、スライドおよびビデオを使用し、視覚を通して理解を深める講義にする。</p>	
専門基礎科目	人体の構造と機能 解剖生理学Ⅲ	<p>医学・看護学を学ぶ最初の専門科目である「解剖学と生理学」は、車の両輪とも言える。そのうちの生理学部分をこの「解剖生理学Ⅱ」で学ぶ。すなわち、まずからだの諸器官のはたらき(機能)の概要を知り、そしてそれぞれの器官が巧みに統合・制御された、よりハイレベルなはたらきを営んでいることを理解するとともに、生体の恒常性(ホメオスタシス)とは何かについて系統的に学ぶ。</p>	
		<p>(概要)</p> <p>解剖生理学Ⅲにおいては、脳と脊髄、末梢神経、泌尿器および発生と生殖器の正常な構造および神経性の調節機構と体液性の調節機構について系統的に学び、生体のホメオスタシスの概念の総まとめを行う。なお、実習に際し、人の命に対する畏敬の念を持つこと、ご遺体に対する尊厳を保つ方法について深く考える機会とする。</p> <p>(オムニバス/全23回) (76 江村正一担当/12回)</p> <p>人と直接かかわる看護学について学ぶには、まず人体の構造と機能について知らなくてはならない。解剖生理学Ⅲにおいては、脳と脊髄、末梢神経、泌尿器および発生と生殖器の正常な構造について学ぶ。スライドおよびビデオを使用するとともに、実習も取り入れて視覚を通して理解を深める。</p> <p>(77 恵良聖一担当/11回)</p> <p>「解剖生理学Ⅱ」で学んだ諸器官のはたらきの自動調節機構について、おもに神経性の調節機構と体液性の調節機構について系統的に学び、生体のホメオスタシスの概念の総まとめを行う。</p>	オムニバス方式
		<p>人体にとっては、糖質、脂質、たんぱく質、核酸などいろいろな生体物質とその代謝によって生命活動が維持されていること、さらに最先端領域である遺伝情報の仕組みを理解するなど、生化学の基礎的知識を学ぶ。生化学の知識が健康維持のためだけではなく、疾病の原因の理解、疾患を早期発見するための検査、疾患の予防や治療、医薬品の開発などにも貢献していることを学ぶ。</p>	
		<p>人体にとっては、糖質、脂質、たんぱく質、核酸などいろいろな生体物質とその代謝によって生命活動が維持されていること、さらに最先端領域である遺伝情報の仕組みを理解するなど、生化学の基礎的知識を学ぶ。生化学の知識が健康維持のためだけではなく、疾病の原因の理解、疾患を早期発見するための検査、疾患の予防や治療、医薬品の開発などにも貢献していることを学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目 人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復促進	栄養学	<p>(概要) ヒトは外界から食物を通して栄養素を体内に取り込み、活動に必要なエネルギーや体の構成成分をつくり出し、健康を維持している。すなわち、健康と栄養は密接な関係にある。医療現場で患者と身近に接している看護師が栄養に関する知識を総合的に理解することは必須なことである。本科目では栄養の概念、栄養のはたらき、栄養素の消化吸収と体内動態についてふれ、続いて各ライフステージでの栄養や臨床栄養、栄養ケア・マネジメント、チーム医療について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 梅津博紀/8回)</p> <p>栄養の概念、栄養のはたらき、栄養素の消化吸収と栄養素の体内動態について講義する。</p> <p>(71 本多恭子/7回)</p> <p>各ライフステージでの栄養や臨床栄養、栄養ケア・マネジメント、チーム医療について解説する。</p>	オムニバス方式
	微生物学(感染・免疫を含む)	<p>微生物学においては、人体に内在する生体防御システムの1つである免疫システムの概要を理解し、そのシステムに不具合が生じたことによっておこるアレルギー・自己免疫疾患等について学習するとともに、免疫システムによって認識・排除されるべきヒトに内在・外在するウイルス・細菌・寄生虫などの様々な微生物群の特徴を学ぶ。さらに、それらによって誘発される疾患とその予防、および基礎的な治療について理解を深める。</p>	
	薬理薬剤学	<p>薬物は、疾病治療だけでなく診断・予防にも用いられ、薬物と疾患の関連性を知ることが医療人として必須である。また、医療事故を防止し、薬物を安全に使用するために関連法と薬物管理に関する知識も必要である。本科目では、総論として、薬物治療の基礎としての薬物に共通した生体における薬物の作用、作用機序および副作用等について学ぶ。また、各論として各疾患の回復を促進する主要な薬物群とそれらの薬物療法について学ぶ。</p>	
	現代医療論	<p>医療の高度な発達背景の歴史とその変遷など幅広く現代医療に関する基本的知識について学習する。医療制度と関連する職業倫理、生命倫理や先端医療等における倫理問題、患者の権利の承認、自己決定権とそれに伴うインフォームドコンセント、生や死に対する新しい概念などの学習を通して看護職者としての役割と自身のあるべき姿について学ぶ。</p>	
	病態治療学 I	<p>(概要) 健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な呼吸器疾患系、循環器疾患系および周手術期に関連する基本的知識を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (80 春日井敏夫/6回)</p> <p>健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な呼吸器疾患系の基本的知識を学習する。呼吸器系疾患は腫瘍、感染症、アレルギー疾患、その他の炎症、先天異常まで多岐にわたるが、呼吸器系の構造・機能の理解のもとに、急性・慢性の機能障害をもたらす呼吸器系疾患の原因・病態生理・症状・診断・治療・予防および予後について学ぶ。</p> <p>(81 森田則彦/6回)</p> <p>健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な循環器疾患系の基本的知識を学習する。総論では循環器系疾患の診断(問診・病歴・現症)、検査(胸部X線、心音、心エコー、心カテーテル、アンギオ)を学ぶ。各論では個々の循環器系疾患として心不全、不整脈、高血圧、先天性心疾患の外科、弁膜疾患、弁膜疾患の外科、虚血性心疾患、心膜疾患、心臓腫瘍、感染性心内膜炎、虚血性心疾患の外科、大動脈疾患、末梢血管など疾患の原因・病態生理・症状診断・治療・予防および予後について学ぶ。</p> <p>(82 赤松繁/3回)</p> <p>周手術期看護を実践するために必要な周手術期の管理と麻酔についての基本的知識を学習する。周手術期の全身管理、周手術期栄養・感染管理、周手術期リハビリテーション及び麻酔の基礎・救急医療・集中治療医学、疼痛緩和医療と主要な疾患の原因・病態生理・麻酔・診断・手術治療・予防および予後について学ぶ。この科目では、臓器移植についても理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病の成り立ちと回復促進 専門基礎科目	病態治療学Ⅱ	<p>健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な消化器疾患系、内分泌・代謝疾患系、血液疾患系の基本的知識を学習する。 (オムニバス方式/全15回) (83 伊藤康文/7回)</p> <p>健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な消化器疾患系の基本的知識を学習する。消化吸収に関する消化管および腹壁さらに肝臓・胆嚢・膵臓の解剖・生理・機能、また各種疾患の原因・病態生理・症状・診断・治療・予防および予後について学ぶ。 (84 山北宜由/4回)</p> <p>健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な内分泌・代謝疾患系の基本的知識を学習する。内分泌・代謝領域に関する各種疾患の原因・病態生理・症状・診断・治療・予防および予後について学ぶ。膠原病・アレルギー疾患は免疫異常を背景として発症する全身性慢性炎症性疾患であり、さまざまな臓器障害・身体障害が起こる。膠原病・アレルギー疾患の原因・病態生理・症状・診断・治療・予防および予後について学ぶ。 (85 村山正憲/4回)</p> <p>健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な血液疾患系の基本的知識を学習する。血液・造血器や免疫異常、腫瘍性の増殖などの起因する疾患について、病因・病態生理・症状・診断・治療・予防および予後について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	病態治療学Ⅲ	<p>(概要) 健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な腎・泌尿器疾患系、脳神経疾患系、筋・骨格・運動器疾患系の基本的知識を学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (86 萩原徳康/2回)</p> <p>健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な腎・泌尿器疾患系の基本的知識を学習する。腎・泌尿器は腎・尿管・膀胱・尿道などの尿路系、前立腺・陰茎・精巣などの男性生殖器、副腎などにおこる疾患を中心に治療を行っている。腎疾患ならびに下部尿路疾患の原因・病態生理・症状・診断・治療・予防および予後について学ぶ。 (87 澤田元史/3回)</p> <p>健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な脳神経疾患系の基本的知識を学習する。脳卒中などの救急医療、脳ドックなどの予防医療や神経リハビリを中心とした機能回復医療、さらに外科的治療法では、顕微鏡下での手術や血管内手術や内視鏡手術、放射線外科手術などがあげられる。脳腫瘍(悪性脳腫瘍、良性脳腫瘍)、脳卒中、機能的脳疾患、脊椎脊髄疾患、頭部外傷、小児脳疾患などの疾患の病因・病態生理・症状・診断・治療・予防および予後について学ぶ。 (88 福田雅/3回)</p> <p>健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な筋・骨格・運動器疾患系の基本的知識を学習する。運動器(骨・関節、筋肉系)、領域は四肢体幹の支持組織である骨・関節軟部組織に関わる疾患は先天性疾患、外傷など多岐にわたる。それら疾患の病因・病態生理・症状・診断・治療・リハビリテーション・予防および予後について学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復促進	病態治療学Ⅳ	<p>(概要) 健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な女性特有の疾患および周産期、小児特有の疾患系、がん治療の基本的知識を学習する。 (オムニバス方式/全8回) (89 松波和寿/3回)</p> <p>健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な女性特有の疾患および周産期の基本的知識を学習する。周産期医学とは生殖医学、産科学および新生児学を包括したものである。妊娠・分娩・産褥の正常経過および正常分娩の取り扱いや各期における母体および胎児・新生児について理解する。女性の性・生殖機能障害と周産期に特有な疾患の原因・病態生理・症状・診断・治療・予防および予後について学ぶ。 (90 林照恵/3回)</p> <p>健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復における看護実践のために必要な小児特有の疾患系の基本的知識を学習する。小児の各疾患の原因・病態生理・症状・診断・治療・予防および予後について学ぶ。特に、現在問題となっている小児生活習慣病から肥満、高脂血症、糖尿病や免疫・アレルギー、小児悪性腫瘍(血液・固形腫瘍)、先天性疾患、腎・泌尿器系疾患、および発達障害等について学ぶ。 (91 小林建司/2回)</p> <p>終末期にある患者の看護実践に必要ながん治療(放射線・化学療法)の基本的知識を学習する。悪性新生物(がん)専門の学問として腫瘍学がある。腫瘍学は従来行われてきた各臓器別疾患の一部として扱われてきた腫瘍領域を横断的にまとめた新しい学問である。造血器腫瘍を含めて各領域でさまざまな癌種があるが、生命に危険を及ぼす疾患であるという点では共通する概念である。各腫瘍の原因・病態生理・症状・診断・画像診断・放射線・化学療法などの治療および予後について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	遺伝情報学	<p>生体の設計図ともいえる遺伝子の発現のしくみを概説し、各種の遺伝性疾患の発症や治療過程との関連を講義する。また、近年完了したヒトゲノムプロジェクトの成果についても、その概要を明らかにし、遺伝情報を利用したオーダーメイド医療の新展開についても言及する。これらを通して、看護師や保健師が関与する遺伝カウンセリングなどへの基礎知識を学ぶ。</p>	
	東洋医学	<p>東洋医学は、中国を発祥とした医学であり、全身のバランスから患部の治療を試みるようにし、人間の心身が持っている自然治癒力を高めることで治癒に導くことを特徴としている。そのために生薬などを用いることも含めている。このように中国、日本、朝鮮半島の伝統的な医療を学ぶ。</p>	
	代替補完療法	<p>(概要) 代替補完療法は、患者全体に目を向け、全人的に治療すること、病気の原因に対する治療よりも自己の持っている回復力に働きかける療法である。この科目では、アロママッサージと音楽療法の二つの方法を通して、代替補完療法の定義、分類、意義などを学び、看護実践への適用について、実際を通して体験的に学習する。 (オムニバス方式/全8回) (94 由利陽子/4回)</p> <p>「アロマセラピー」とは、植物から抽出したエッセンシャルオイル(精油)を用いて心と身体を健康を増進するための自然療法である。天然100%からなる精油の正しい使用方法、さらに心理的作用や身体に働きかける肉体的生理作用を学ぶ。また、ハンドマッサージの実習を通して、リラクゼーション効果、各身体器官への働きを学ぶ。 (95 清水啓子/4回)</p> <p>音楽療法とは、病気や障害を持つ人に音楽の生理的、心理的、社会的な働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上を促進させていくものである。音楽で関わることにより、対象者がより良い状態に変わっていくことをめざしている。授業では、音楽療法の基本的な知識や心構えを身につけ、福祉や医療現場における音楽を用いた援助について学ぶ。歌唱や簡単な楽器による音楽体験や模擬実践も行う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	人間理解	生涯発達論	<p>(概要) 発達概念と生涯発達に関わる発達理論を理解する。主にエリクソンの発達課題を中心として、人のライフサイクルにおける各発達段階の特徴について学び、それぞれの段階における危機と課題および発達に必要な支援を学ぶ。小児期、成人期、老年期における発達と課題について、各専門領域の教員が担当し、オムニバス形式で授業する。具体的には、三世代家族の事例を通して学習する。 (オムニバス方式/全8回) (1 大見サキエ/2回) 生涯発達の理論と発達に関する考え方について学習する。 (2 小河育恵/2回) 成人期における発達の特徴とその支援方法について学習する。 (3 人見裕江/2回) 老年期における発達の特徴とその支援方法について学習する。 (17 高橋由美子/2回) 小児期における発達の特徴とその支援方法について学習する。</p>	オムニバス方式
		コミュニケーション論	<p>(概要) コミュニケーションの概念と機能、人間関係を築く上での自己理解・他者理解に関する基本的な知識及び看護専門職者として対人関係を築くために必要な基本的なコミュニケーション技法を学ぶ。人としてのコミュニケーションの基本であるマナー（挨拶や言葉遣い、敬語の使い方）について学ぶ。その上で、専門的コミュニケーションである、看護コミュニケーションとしての患者面接技法の基本を学習する。学んだ知識を活用して、看護実践で用いるコミュニケーション技法を演習で身につける。これらの学習の成果は1年前期におこなわれる基礎看護学実習Ⅰで活用する。 (オムニバス方式/全15回) (1 大見サキエ/4回) コミュニケーションの意義と基本的概念について概説した後、学生同士のロールプレイングで、聴く・話す体験をし、自己の傾向を知ると共にコミュニケーションスキルを高める。人間関係構築の初期段階における自己開示の重要性と活用方法を学ぶ。 (9 佐藤道子/9回) 看護は、患者と看護師の対人関係の中でケアを推進していく。看護師は患者との良好な関係を発展する対人関係の技術と理論を身につける必要がある。最初にゲストスピーカーによる、人としてのコミュニケーションの基本的マナー（挨拶や言葉遣い、敬語の正しい使い方）について知識とともに実際に学ぶ。次に、看護専門職者としてのコミュニケーションのあり方とコミュニケーション技法について学習する。 (9 佐藤道子・22 中川名帆子・23 小西真人/2回) (共同) 基礎看護学実習Ⅰに向けて、専門職者としての患者とのコミュニケーションの実際を演習を通して学ぶ。</p>	オムニバス方式 共同(一部)
		クリニカルコミュニケーション	<p>国際社会に対応した看護師に求められるコミュニケーション能力を高めることをねらいとする。日本における外国人患者が直面する問題、医療者の意識・対応の実際、海外と日本の医療制度および文化の違いについて学ぶ。最善の医療を提供するために求められる外国人患者とのコミュニケーションに必要な知識および方法についてロールプレイなど実技を通して体験的に学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	看護の対象理解論	<p>(概要) 看護の対象を理解するための前提として人間を様々な側面(身体的、精神・心理的、社会的、霊的)から理解する必要性を既習知識をもとに再確認する。様々な発達段階、健康問題、局面の対象の代表的事例について、ゲストスピーカーを招いて体験談を聴くことによる対象の理解、手記を読んだ対象の理解、映画(DVD)鑑賞による対象の理解を目指す。これらは事例ごとに小グループで意見交換し、整理、全体発表、討論し、理解を深める。一見矛盾した行動をとる対象であっても対象の内的体験を尊重することで見えてくる真実に、看護者としてどのような対応が望ましいのか、深く考える機会とする。</p> <p>(1 大見サキエ/11回) 数事例の患者・家族の闘病記や体験談の手記を事前に読み、各事例に分かれて、小グループで患者・家族についての理解をめぐるディスカッションやロールプレイ等を行い、人間理解の奥深さや難しさ、理解のあり方を考察する。また、患者・家族の当事者体験をゲストスピーカーによる語りから、あるいはDVD視聴による患者・家族の決断などによりディスカッションし、対象理解のあり方を深く探求する。</p> <p>(1 大見サキエ・16 魚住郁子/2回) (共同) 老年看護学領域における事例(ゲストスピーカーあるいは紙上事例)を基に対象理解についてディスカッション、考察する。</p> <p>(① 大見サキエ・⑨ 林和枝/2回) (共同) 精神科における代表的な統合失調症や気分障害の患者の事例を基に、精神看護学特有の患者の理解の視点や方法について、グループに分かれてディスカッション、考察し、全体で共有する演習とする。精神看護学領域の教員が事例提供し、他の担当教員と共に演習を担当する。</p>	共同 (一部)
	家族社会学	<p>家族社会学の誕生・発展の背景、家族社会学の概念と家族支援における基本的な理論、および看護の役割・機能・アプローチの特徴について学ぶ。さらに所属する家族とは何であるのか、社会の変化とともに家族はどう変化しているのか、なぜ家族援助が必要なのかを考え、家族援助の基礎的な理論を理解し、誰がどのように援助するのかという家族援助の制度と方法について学ぶ。同棲、結婚、夫婦関係、離婚、再婚と家族、セクシュアリティ、妊娠と出産、育児と子育て、父親と母親の役割、子どもの社会化、家事と育児の性別役割分担など社会の変化について学ぶ。</p>	
	日本手話	<p>(概要) 日本手話は身振りやジェスチャーのような音声日本語の補助的手段ではなく、日本語とは独立した、日本語とは異なる文法を持つ言語である。日本には、日本手話以外に日本語対応手話と呼ばれる手話が存在するが、二つの手話の文法・使用者・言語的背景はまったく異なっている。日本手話は日本語とは別系統の言語であるが、日本語対応手話はその使用・理解において日本語文法に大きく依存している。日本手話が、日本語や日本語対応手話と異なる存在であることを理解するために、日本手話の言語的特徴を講義するだけでなく、日本手話の実技指導も合わせて行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (96 原大介/4回) 日本手話と日本語の違いや日本手話および日本手話使用者の文化的背景について学習する。 (96 原大介・97 黒坂美智代/4回) (共同) 日本手話で自己紹介や簡単な挨拶ができるようになるために演習する。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	臨床心理学	<p>臨床心理学は、心理的な問題を抱える人々を援助するという極めて実践的な目的を持つ学問である。人の発達を、身体・運動・認知・社会性・人格など様々な側面から概観するとともに、発達段階における心理臨床的な課題・問題、およびそれに対する支援について学ぶ。個性をもって生まれた一人の人間が、周りの人や環境との相互作用しながら成長していく過程と各段階における問題点を理論的に学ぶ。これらの学びを通して看護の対象となる患者理解に役立てる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	社会と健康支援	公衆衛生学と法規	ヒトは、一つの個体として生きているのではなく、ヒトを取り巻く各種環境の中で存在しており、社会の変動やヒトの価値観の変化によって影響を受ける。臨床医学が主に個人を対象とした学問であるのに対し、公衆衛生学は、社会との関連における疾病の予防、健康の保持・増進を目的としている。本科目では、健康の概念を知るとともに、身の回りの生活環境による健康影響を学ぶ。さらに生を受けて死に至るまで、関連法規のもとで健康的に生活する術を学ぶ。	
		保健統計学	統計学は、集団における事象を量的に表現し、それを適切な方法で解析することで、その集団における全体的規則性を明らかにする学問である。医療従事者として、集団における健康事象を把握・分析する能力を身につけることで、医療情報を理解し、医療の現場で活用できる能力が養われる。看護研究や地域での研究を進める上で必須の知識である。本科目では、コンピュータに対する適応力を養うとともに、統計学の基礎的な手法について学ぶ。	
		疫学	疫学とは、人間集団における健康関連現象の頻度と分布を明らかにし、それらに影響を与える要因を包括的に明らかにすることで、健康増進と疾病予防を図る科学である。こうした考え方は、保健・医療・看護の基礎分野のみならず、地域における実践活動や臨床疫学の応用であるEBM(根拠に基づく医療)やEBN(根拠に基づく看護)においても必須のものである。本科目では、疫学研究の報告を理解する力を養うとともに、これを看護の実践に適用できる能力を養う。	
		保健医療福祉行政論	地域看護(看護師/保健師)の役割が理解でき、現場における看護課題を政策化する方法論を学ぶ。保健医療福祉制度における地域看護政策の現状と課題を学ぶ。また、地域看護領域における概念・理論を理解し、効果的な活動方法を学ぶ。	
		社会福祉概論	社会福祉の全体像を理解するとともに、主な社会保障や社会福祉の制度の概要と関連する福祉職の実際について学ぶ。 より科学的論理性のある看護を展開するために、様々な看護学領域の視点から社会保障や社会福祉の制度の利用方法や事例を学び、倫理性をふまえた看護の展開および福祉職との連携について考える。	
		医療安全	高度医療の進展と同時に医療安全対策を推進することが喫緊の課題である。本科目では、医療安全とリスクマネジメントの動向や医療におけるリスクマネジメント、ヒューマンエラーとその予防対策、効果的な医療安全管理、関連法規等の概要を学習する。リスクの分析、対応を様々な事例を活用して理解を深める。また、感染管理について感染予防の基本的知識、管理の実際について事例を通して学習する。 (オムニバス方式/8回) (⑩ 栗田恭子/4回) 医療安全の動向と関連法規、効果的な医療安全管理について学習する。病院で起こりやすい具体的な医療事故を事例に取り上げ、リスクマネジメントのプロセス(リスクの把握、分析、対応、評価)について学習する。特に与薬、チューブ・カテーテル類、転倒・転落等の起こりやすい事故について学習する。 (⑪ 佐藤絢子/4回) 感染の標準予防対策に必要な基礎的知識、具体的感染予防技術について(環境整備、ケア時の予防対策、医療行為を実施する場合の予防対策等)学習する。病院内に配置されている認定感染看護師の役割について学習する。	オムニバス方式
		ボランティア活動	本授業科目は、社会的にもニーズが高い障害児等とその家族の支援を目的に、ボランティア活動を実施する。実施対象は、岐阜県立希望ヶ丘学園および長良特別支援学校の肢体不自由児や病弱児、医療的ケアの必要な子どもとその家族である。事前に学校(のPTA主催)が計画するボランティア養成講座に参加し、子どもや家族の理解、対応の方法等を学習した後、学校が企画する夏祭り等の行事やクラブ活動のボランティア活動に従事する。ボランティア活動を体験することで、本学の建学の精神の一つである「利他」の精神を身につける。学内では事前にボランティア活動の心構えを概説し、最後に教員も参加し学生間で学習内容を共有する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	多職種連携論	<p>(概要) 多職種が連携することの必要性和現状の課題について学習し、保健医療ケアチームの一員として、看護職の役割を自覚し、多職種と連携していくために何が出来るかを考えることができる能力を養う。具体的には地域で暮らす療養者・家族や保健・医療・教育・行政等で勤務している専門職のゲストスピーカーを招いて、それぞれの連携の現状と課題を聞き考える機会とし、社会資源の活用の仕方や地域包括ケアシステム構築の必要性について学び、その後の実習や4年次の多職種連携実践演習の基礎とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (3 人見裕江/7回)</p> <p>多職種が連携することの必要性和現状の課題について学習し、保健医療ケアチームの一員として、社会資源の活用の仕方や地域包括ケアシステム構築の必要性について学ぶ。地域で暮らす療養者・家族や保健・医療・教育・行政等で勤務している専門職のゲストスピーカーを招いて、それぞれの連携の現状と課題を聞き、考える機会とする。</p> <p>(5 小林純子/1回)</p> <p>精神看護学領域における多職種連携の実際として、ACT (Assertive Community Treatment : 包括的地域生活支援等)について学習する。</p>	オムニバス方式
	退院支援論	<p>(概要) 退院支援の意義を理解し、患者・家族の状態に応じた退院支援について考える視点を身につける。退院支援の現状と取り組みのポイント、退院支援の3つの段階(プロセス)、退院支援に必要な体制や社会資源について学ぶ。また、本講では母性看護、精神看護、成人看護における退院支援の現状と課題について学び、よりイメージ化を図る。実際には具体的事例を基に小グループで退院支援計画を立て、全体でディスカッションし、退院して地域に戻り、安心して生活できるための患者・家族への支援について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (1 大見サキエ/5回)</p> <p>退院支援の意義と取り組みのポイント、退院支援のプロセス、退院支援体制や社会資源について、これまでの看護専門科目で学習した内容を再確認しながら、理解を深める。また、事例を基に退院支援計画を小グループで立て、患者・家族に応じた退院支援の方法を学習する。</p> <p>(14 大久保仁司/1回)</p> <p>成人看護領域における退院支援の現状と課題について、具体的事例を基に学習する。</p> <p>(5 小林純子/1回)</p> <p>精神看護学領域における退院支援の現状と課題について、具体的事例を基に学習する。</p> <p>(18 贅 育子/1回)</p> <p>母性看護領域における退院支援の現状と課題について、具体的事例を基に学習する。</p>	オムニバス方式
専門科目	看護学概論	<p>(概要) この科目では「看護とは何か」という基本的概念について学習する。看護学の主要概念である人間・健康・環境・看護、および看護実践の理論的根拠となる看護理論の変遷とその内容を看護学の発展の歴史的背景を踏まえて、広い視野から学ぶ。さらに現代における看護の役割や機能、看護活動の内容理解を深め、ヘンダーソンの理論を用いて、事例を通して看護過程の展開の基礎知識を学習する。看護過程の知識は、基礎看護学実習Ⅱで実際の患者の看護について学ぶ際に活用する。看護を實踐していく上で重要な要素である「看護と倫理」について考える。これらの学習を通して、自らの看護観を育てていくことを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基礎看護学	生活援助技術論	<p>(概要) 生活援助技術論では、看護技術を実施する上で基盤となる知識を習得する。看護技術の意義について学ぶ。看護援助が必要な人々の生活を支援するための看護技術を【感染予防】、【環境調整技術】、【食事援助技術】、【排泄援助技術】、【活動・休息援助技術】、【清潔・衣生活援助技術】に分類し、安全・安楽に配慮して実施できるように講義を通して学ぶ。本科目で学んだ知識を生活援助技術演習にて実施する。</p> <p>(オムニバス/全15回) (13 上田ゆみ子/13回)</p> <p>生活援助技術論では、対象者の最適な健康状態を目指して日常生活を支えるための基本的看護の方法について学習する。13回の授業の中で、感染予防、環境調整、排泄、活動・休息、清潔・衣生活、に関する基本的知識、技術、態度について学ぶ。</p> <p>(23 小西真人/2回)</p> <p>生活援助技術論では、対象者の最適な健康状態を目指して日常生活を支えるための基本的看護の方法について学習する。2回の授業の中で、栄養に関する基本的知識、技術、態度について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	診療援助技術論	<p>(概要) あらゆる看護活動の場において、さまざまな健康段階にある対象者の最適な健康状態を目指して、患者の健康状態をアセスメントし、診察および検査に伴う基本的な看護援助の方法及び治療に伴う看護援助の方法(呼吸、循環、栄養、排泄、与薬、創傷管理)の基本的知識、技術、態度について学ぶ。さらに医療安全、患者の権利擁護の観点から、看護職者としての役割と責任、とるべき行動について考える。</p> <p>(オムニバス/全15回) (9 岸あゆみ/10回)</p> <p>診療援助技術論は、診察および検査に伴う基本的な看護援助の方法及び治療に伴う看護援助の方法について学習する。10回の授業の中で、呼吸、循環、栄養、排泄、皮膚創傷管理における看護援助の方法の基本的知識、技術、態度について学ぶ。</p> <p>(6 佐藤道子/2回)</p> <p>診療援助技術論は、診察および検査に伴う基本的な看護援助の方法及び治療に伴う看護援助の方法について学習する。2回の授業の中で、検査における看護援助の方法の基本的知識、技術、態度について学ぶ。</p> <p>(22 中川名帆子/3回)</p> <p>診療援助技術論は、診察および検査に伴う基本的な看護援助の方法及び治療に伴う看護援助の方法について学習する。3回の授業の中で、与薬における基本的知識、技術、態度について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	生活援助技術演習	<p>あらゆる看護活動の場において、さまざまな健康段階にある対象者の最適な健康状態を目指して日常生活を支えるための看護介入の方法である看護技術(環境調整、栄養、排泄、活動・休息、清潔・衣生活、感染防御)を演習を通して身につける。技術習得に際しては、看護技術の基本原則である患者の安全、安楽、自立の観点から、看護者としてとるべき態度について考え、学内演習における実践を通して学ぶ。</p>	共同
	診療援助技術演習	<p>あらゆる看護活動の場において、さまざまな健康段階にある対象者の最適な健康状態を目指して、患者の健康状態をアセスメントし、診察および検査に伴う基本的な援助の方法としての看護技術、具体的には与薬、栄養、排泄、呼吸、循環、創傷管理に関わる技術を演習を通して身につける。さらに医療安全、患者の権利擁護の観点から、看護者としてとるべき態度について考え、学内演習における実践を通して学ぶ。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	基礎看護学	フィジカルアセスメント	<p>(概要) 解剖学・生理学の知識をもとに、様々な健康レベルにある人に適切な看護を実践するために必要な身体状況を客観的に把握する方法としてのフィジカルアセスメントの知識と技術、態度について学習する。臨床場面で重要な胸部(肺・胸郭・心臓)及び腹部のフィジカルイグザムの方法を演習を通して身につける。さらに、収集した身体的情報についてアセスメントし、看護問題の明確化、ケア計画、実施、評価との関連について学ぶ。 (9 佐藤道子/5回) フィジカルアセスメントの理論的知識について学ぶ (9 佐藤道子・⑨ 岸あゆみ・13 上田ゆみ子・22 中川名帆子・23 小西真人/10回) (共同) フィジカルイグザムの方法を演習を通して身につける</p>	共同(一部)
		看護倫理	<p>看護における倫理原則、患者の権利と人権擁護、看護職に求められる倫理、倫理的課題の現状を学習する。(1)看護実践における倫理的課題に対する基礎知識の獲得、(2)看護倫理の持つ意味、倫理原則や多様な価値観および現在、医療現場が抱える倫理的課題について理解する、(3)看護実践場面で遭遇する倫理的ジレンマの特徴を理解し、その問題をどう考え、どう対処していくかを検討する。</p>	
		SPP技術演習	<p>この科目は、2年生と4年生が連携して「共に学び合う」授業である。4年生から提示された模擬事例について、「状況に応じた適切な看護を実践する」ことを目指して小グループで援助計画を立案、実施する。4年生のアドバイスや指導を基に、これまでに学習した看護技術をブラッシュアップする。この授業では、4年生から適切な指導やアドバイスを受けるための態度や行動について考え、身につけることも目的としている。</p>	共同
		基礎看護学実習Ⅰ	<p>医療施設における看護援助場面の見学や体験を通して、看護の対象となる患者の理解を深めると共に患者の療養環境を理解する。看護師と行動を共にし、見学および援助の一部に参加することで、看護の役割や機能を理解し、看護とは何かを学ぶ。また、看護師と関連職種との連携、看護師と患者の良好なコミュニケーションについて理解を深める。臨地看護実習に主体的、積極的、計画的、かつ誠実に取り組むことで、看護専門職者に求められる態度を形成する。</p>	共同
		基礎看護学実習Ⅱ	<p>看護師が行う看護実践場面の見学や実践場面へ主体的に参加することを通して、健康回復のために必要な看護の方法を学ぶ。看護師と共におこなうケアの実践を通して、情報のアセスメント、ケア計画立案、実施、評価するという一連の看護過程についての理解を深める。学内で学んだフィジカルアセスメント及び看護技術を対象の状況に応じて適用する方法について学ぶ。臨地看護実習に主体的、積極的、計画的、誠実に取り組むことで、看護専門職者に求められる態度を形成する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 成人看護学	成人看護学概論	成人期にある人の価値観・健康観の多様性、役割や健康問題など、ライフサイクルの中で生活者としての特徴を踏まえ、健康上のニーズ及び対象の健康問題に関する知識を習得し、成人看護の役割と機能を考える。	
	成人看護学援助論Ⅰ	<p>(概要) 成人期にある健康各レベルにある人とその家族に対して、最良の看護を提供するために必要な基礎的知識と技術について学習をする。内容として人体の機能(消化・吸収機能、呼吸)障害から生じる生活への影響を理解し、健康レベルに応じた看護について学習する。シミュレーターを用いた事例を実践的な状況設定下での演習を通して、援助を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (2 小河育恵/4回)</p> <p>授業の主な担当は、成人期にある人の消化・吸収機能障害、栄養・代謝機能障害をもつ患者への援助について教育する。また、臨地実習で受け持つことの多い事例を通して教育・指導する。 (14 大久保仁司/3回)</p> <p>授業の主な担当は、成人期にある人の呼吸機能障害をもつ患者への援助について教育する。また、臨地実習で受け持つことの多い事例を中心に教育・指導する。演習は全ての成人看護の教員が携わる。 (24 西村淳子/2回)</p> <p>臨地実習で受け持つことの多い消化器、呼吸機能障害をもつ人の事例展開を中心に教育・指導する。 (2 小河育恵・24 西村淳子/1回) (共同)</p> <p>開腹術・腹腔鏡下で手術を受ける患者の看護についてシミュレーターを用いたプログラム演習を通して学ぶ。 (2 小河育恵・14 大久保仁司・⑩ 狩野雅道/2回) (共同)</p> <p>胃切除術・再建術を受ける患者の事例展開をシミュレーターを用いてプログラム演習を通して学ぶ。 (2 小河育恵・14 大久保仁司・⑩ 狩野雅道・24 西村淳子/3回) (共同)</p> <p>手術を受ける患者、ストーマ造設患者、インスリン自己注射の必要な患者の援助について演習を通して学ぶ。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	成人看護学援助論Ⅱ	<p>(概要) 成人期の健康各レベルにある人とその家族に対して、最良の看護を提供するために必要な基礎的知識と技術について学習をする。授業内容は成人看護学援助論Ⅰの学習過程を踏まえて、より生活に影響を及ぼす機能障害と看護について学ぶ。循環機能障害、脳・神経機能障害、性・生殖器機能障害から生じる生活への影響を理解し、健康レベルに応じた看護について学習する。事例をシミュレーターを用いて実践的な状況設定下で演習する。 (オムニバス方式/全15回) (2 小河育恵/7回)</p> <p>授業の主な担当は、成人期にある性・生殖機能障害をもつ患者の看護とその家族の生活への影響を理解し、健康レベルに応じた看護について教育する。また、臨地実習で受け持つことの多い事例の演習を中心に教育・指導する。演習は授業担当教員が携わる。 (⑩ 狩野雅道/4回)</p> <p>授業の主な担当は、成人期で循環器機能障害、脳神経機能障害のある患者の看護について、患者とその家族の生活への影響を健康レベルに応じた看護を教育・指導する。また、臨地実習で受け持つことの多い事例の演習を中心に教育・指導する。演習は授業担当教員が携わる。 (⑮ 西村淳子/2回)</p> <p>授業の主な担当は、成人期で循環器機能障害のある患者の看護について、患者とその家族の生活への影響を健康レベルに応じた看護を教育・指導する。 (⑩ 狩野雅道・⑮ 西村淳子/2回) (共同) 演習 虚血性心疾患急性状況の援助計画について演習を通して学ぶ。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
成人看護学	がん看護援助論	<p>(概要) 成人期に発生しやすいがんについて、症状の特徴を踏まえ、がんの治療を体験している患者とその家族への援助方法および看護職の役割を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (14 大久保仁司11回)</p> <p>授業の主な担当は、がん看護の動向、がんの治療を体験している患者とその家族への援助方法について告知から症状コントロール、緩和について理解する。主な演習内容として、血液・リンパがん患者の事例について教育・指導する。 (2 小河育恵/4回)</p> <p>授業の主な担当は、がん終末期にある患者とその家族の看護 がんサバイバーについて、実践例を通して教育・指導する。</p>	オムニバス方式
	成人看護学実習	<p>成人期以降にある患者を受け持ち、援助を実践する。対象者の発達像・生活像の身体的・精神的・社会的な特性を総合的に捉え、身体侵襲の予測と回避、生体機能の回復、苦痛の緩和、生活の再構築に向けた看護を実践するために必要な知識、技術、態度を養う。これまで学習した知識、技術、態度を周手術期、急性期、回復期、慢性期にある患者1人～2人を受け持ち、看護を計画、実践・評価し、看護の継続性を考察する。</p>	共同
専門科目	老年看護学概論	<p>老いを生きるとはどういうことなのか、健やかに老い、その人らしい暮らしとエンドオブライフケア、生ききることを支援する地域づくりについて学習する。エイジング(加齢)の理論・学問領域、エイジングと社会との関連性や倫理的課題、高齢者の身体・精神機能の加齢変化などを概観し、疾患を有する高齢者の看護にとどまらず、サクセスフル・エイジング促進のための地域包括的ケアシステムにおける多職種連携と老年看護の役割を学ぶ。さらに、高齢者体験や関連書物を通して、高齢者やその介護者に対する共感的態度およびパーソンセンタード・アプローチを身につける。</p>	
	老年看護学	<p>(概要) 社会的背景をふまえ、老年看護の対象である高齢者の健康状態が本人や家族の社会生活にどのように影響しているのか、また一方で、高齢者自身の生活機能の強みや弱みについてヘルスアセスメントし、“その人らしい生活”の実現を支援することができるのかについて学ぶ。</p> <p>加齢による身体的・精神的・社会的変化に伴う生活機能について説明でき、本人の社会生活への影響について学ぶ。また、高齢者におこりやすい社会生活における機能障害と潜在的な強みや弱みについて理解する。</p> <p>高齢者の特徴的な症状、疾患を理解し、健康状態が社会生活にどのように影響しているのか想起する能力を養う。また、高齢者自身の強みや弱みを生かした援助について考える。</p> <p>高齢者を介護する人のケアとそのサポートのための地域包括ケアシステムにおける医療と生活の多職種連携と看護の役割について理解する。また、老年看護技術の新たな動向と課題について学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	老年看護学	<p>(概要) 認知症と老年期に多くみられる健康課題に対する看護を学ぶ。また、加齢に伴う薬物動態、服薬行動の特徴を理解し、服薬援助の方法を学ぶ。さらに事例を通して看護過程を展開し、高齢者の生きてきた背景にある価値観やライフスタイル、行動パターンなどを考慮して個々の尊厳を尊重した援助を計画立案する。高齢者の特徴と健康レベルに応じた老年期にある人及びその家族への支援方法を学ぶ。また、高齢者の包括的アセスメント、高齢者に多い疾患と看護、事例に基づく看護過程の展開を学ぶなかで、高齢者を全人的に理解し、人間としての尊厳を保ち、自尊心を傷つけない対応が援助の基本であることを理解する。さらに、高齢者がどのような健康状態であっても、日常生活のなかで、もてる機能を最大限に発揮できるような支援が重要であることを学ぶ。</p> <p>高齢者の活性化ケア、介護および看取り、エンドオブライフケア支援の方法を学ぶ。</p> <p>既習の看護理論を活用し、老年期にある人々の身体的・精神的・社会的変化に伴う生活機能のアセスメントを行い、持てる力、強みや弱みを生かした看護介入方法を学ぶ。</p> <p>老年期の喪失体験・悲嘆・死、リスクマネジメントと老年看護の役割についてロールプレイを通して学ぶ。</p>	
	老年看護学実習Ⅰ	<p>高齢者ケア施設での実習を通して、高齢者ケア施設で暮らす高齢者の身体、心理精神的、社会環境的特徴を理解し、その人らしい生活を支援する看護について、探究する。高齢者が生活する上での社会生活機能(力)について指標を用いてアセスメントし、生活ニーズや生活課題を踏まえた支援と地域ケアシステムにおける医療と介護の多職種連携、および看護職の役割について学習する。さらに、互いの学びを共有しディスカッションすることで、当事者主体の地域ケアシステムにおける医療と介護の多職種連携と看護職の役割について考察する。</p>	共同
	老年看護学実習Ⅱ	<p>高齢者ケアについて、各専門職員と共に活動し、地域包括ケアシステムにおける医療と介護の多職種連携、チームケアにおける看護職の役割を学ぶ。ケア職員と共に援助を行いながら療養生活を送る高齢者の日常生活の援助の仕方を学ぶ。</p>	共同
	小児看護学	<p>(概要) 子どもから大人へと成長・発達する変化を踏まえて、小児看護の特徴と看護の果たすべき役割について学習する。子どもに関する統計の数値から、子どもに安全な環境を提供する重要性や学習環境を保障する必要性、子どもの健康維持のための母子保健事業や児童福祉行政などの政策を学び、健やかな育ちの支援について考える。倫理的な観点から、子どもの人権について学び、権利擁護について考える。子どもを取り巻く社会や小児医療の現状から子どもと家族の置かれている状況を知り、健康上の問題を理解し小児看護の果たすべき課題を考えていく。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 大見サキエ/2回)</p> <p>歴史的背景から子どもの人権擁護のあり方について学習し、事例を用いてディベートすることによって、医療場面における権利擁護の必要性と倫理的配慮について考察する。</p> <p>(11 谷口恵美子/3回)</p> <p>子どもの成長・発達をふまえ、子どもの特性を理解し、その対象への看護の変遷を学習する。子どもを取り巻く社会への関心を高め、現代社会における子どもと家族の置かれた状況から子どもの健康上の問題を理解し、小児看護の現状と課題を考える力を養う。</p> <p>(17 高橋由美子/3回)</p> <p>保健衛生統計からみた小児と家族の健康問題を理解し、子どもとその養育者をめぐる法律や政策について理解し、保健・医療・福祉・教育との連携について考える。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 小児看護学	小児看護学援助論Ⅰ	<p>(概要) 「生涯発達論」で学んだ知識をふまえて、成長・発達の特徴をふまえた養育について理解する。養育者との愛着形成は、自立・自律の基盤となることを重視し、日常生活の援助方法を技術演習を体験しながら学習する。また、子どもの生命や健康を脅かす大きな要因である事故について理解を深め、子どもの安全を守るために必要な対策や安全教育について考える。さらに、子ども虐待の現状やその背景、子どもの精神保健の問題について理解し、多職種が連携した地域における育児支援・健全育成のための支援について考える。</p> <p>(17 高橋由美子/7回)</p> <p>子どもの養育における重要な要素を理解し、成長・発達の評価や家庭環境アセスメントの意義とその方法を学ぶ。小児各期の成長・発達の特徴をふまえた日常生活の援助について学ぶ。食育の重要性を理解し、日常生活行動の自立に向けた、成長・発達を促進する援助の方法を学ぶ。さらに、子どもの事故・事故防止について理解を深め、子どもが健やかに育つための育児支援や健全育成の推進について考える。</p> <p>(11 谷口恵美子・17 高橋由美子/1回) (共同)</p> <p>乳幼児の養育に必要な日常生活の世話の看護技術演習を行う。</p>	共同 (一部)
	小児看護学援助論Ⅱ	<p>(概要) 子どもの健康障害は、子ども自身に大きな影響を与えると同時に常に家族に大きな影響を与えることをふまえて、家族を含めた看護の視点、方法を学習する。入院を必要とする子どもと家族の看護においては、子どもの安全を守り子どもの持つ力を最大限に発揮できるようにすることが重要である。危険予知トレーニング(KYT)を活用して子どもの入院環境の安全を考え、子どもと家族に対する適切な入院環境調整の必要性とその支援について学習する。子どもとの健康障害の種類と症状、経過に応じた子どもと家族の看護を事例を通して学習する。また、常に退院支援を視野にいたした看護の必要性を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 谷口恵美子/11回)</p> <p>子どもと家族にとっての病気体験を理解することを基盤として、入院を必要とする子どもの看護について、病院環境や医療安全、家族全体への影響などから理解し、入院適応への看護を学ぶ。また、退院支援から継続看護・在宅看護の視点を持って、健康障害の経過に応じた小児看護の特徴を理解し、子どもに多くみられる気管支喘息・ネフローゼ症候群・白血病を通して、成長発達や症状をふまえた看護を学ぶ。</p> <p>(17 高橋由美子/3回)</p> <p>子どもに多くみられる肺炎・先天性心疾患・川崎病を通して、成長発達や症状をふまえた看護を学ぶ。</p> <p>(11 谷口恵美子・17 高橋由美子/1回) (共同)</p> <p>危険予知トレーニングの手法を用いた演習を行い、子どもの安全な入院環境を調整する必要性を認識し、その方法について考察する。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 小児看護学	小児看護学援助論Ⅲ	<p>(概要) 健康問題をもつことによつてさまざまな困難状況に直面する子どもと家族の体験を理解し、援助のあり方を考えていく。子どもに特有な看護技術についてDVD視聴を交えて学び、演習を通して実物を見て、体験することにより、対象の発達段階や健康障害の程度に応じた工夫について考える。看護過程の展開は、基本的な講義の後、事例を通して臨地実習で使用する記録用紙に情報を整理し、アセスメント、問題の明確化、看護目標の設定、実践計画を立案する。個人展開後にグループで検討し、発表を通じて考え方の多様性を学ぶ。更に、一場面を取り上げたロールプレイングを行い効果的コミュニケーションや小児看護の特徴をふまえた看護実践について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (11 谷口恵美子/5回)</p> <p>低出生体重児の看護、救急処置を必要とする子どもの看護、災害を受けた子どもと家族への看護の方法を学ぶ。小児看護技術について、子どもの健康状態を査定するために必要なバイタルサイン測定や採血等の検査、健康障害の治療のために行われる処置について理解し、子どもが安全かつ精神的な負担が軽減して検査・処置を受けられるためのプレパレーションやディストラクションについて学ぶ。</p> <p>(17 高橋由美子/4回)</p> <p>健康障害による活動制限、感染防止のために隔離を必要とする状況にある子どもと家族の看護を学ぶ。また、不確かな健康問題をもつ子どもと家族の理解を深める。看護過程の展開について、基本的な考え方を確認し、小児看護の特徴をふまえた展開の要点を学ぶ。</p> <p>(11 谷口恵美子・17 高橋由美子/6回) (共同)</p> <p>看護技術演習を行う。講義内容をふまえ、小児看護技術特有の看護技術をシミュレーションモデルやロールプレイングで体験し、小児看護にかかわる看護師の役割について考察する。</p> <p>事例を基にした看護過程の展開のグループワークを行う。グループで検討しながら、情報を整理し、アセスメント、問題の明確化、看護目標の設定、実践計画を立案する。さらに、思考と看護実践の統合をはかる。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	小児看護学実習Ⅰ	<p>保育所実習を通して乳幼児期にある子どもの成長・発達と養育のあり方について学習する。0歳～5歳までの乳幼児の日常生活の援助(食事、排泄、清潔、衣服の着脱、睡眠、遊び)を日課に沿って行い、一般的な子どもの成長・発達を理解すると共に、成長・発達に応じた養育のあり方について学習する。また、特別に配慮が必要な子どもや病児保育の様子、各園で取り組まれている家族関係を含めた地域での子育て支援等について学習する。さらに、互いの学びを共有しディスカッションすることで、保健・医療・福祉・教育などの社会資源を活用し子どもと家族のQOLを高める援助について考察する。</p>	共同
	小児看護学実習Ⅱ	<p>健康障害および入院が子どもと家族に与える影響を理解し、子どもの発達と健康障害の種類や経過に応じて、倫理的配慮のもと看護実践できる能力を養う。小児病棟や障害児の施設において一人の患児を受けもち、看護計画を立案、実施、評価する一連の看護過程を学習する。さらに、多職種連携および社会資源(保健・医療・福祉・教育等)の活用について理解し、子どもと家族の最善の利益について考える視点を身につける。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	母性看護学	母性看護学概論	女性の健康問題に対する看護の前提となるリプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション、エンパワーメントなどの概念や家族関係の変化、社会の動き（変化）を理解し、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進と次世代の健全育成をめざす看護の重要性を学ぶ。また、女性のライフステージにおける特徴を理解し、母性看護の変遷や母性看護の役割を学ぶ。さらに、母子の健康的な発達や安全を支援し、社会の変化に対応していくための母性看護技術の必要性を理解し母性看護の役割を学ぶ。特に、退院支援として、家族を含めて母親学級や健康的な養育生活など個別指導や集団指導、地域における母親学級の必要性、重要性について学ぶ。	
		母性看護学援助論Ⅰ	<p>（概要）妊娠期・分娩期にある人への援助に必要な援助の方法を学習する。妊娠期・分娩期の生理的な変化および正常な経過を学んだ上で、正常な経過を維持し健康を保持・増進するために必要な保健指導・セルフケアの方法と技術を学ぶ。さらに妊娠期・分娩期の異常が母子に及ぼす影響についても学習する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （4 松宮良子/4回）</p> <p>授業の主な内容として、妊娠期の生理的な変化および正常な経過を理解し、母体および胎児の順調な経過を支える保健指導とその援助方法を学ぶ。また、この時期にみられる異常について理解する。</p> <p>（18 贅育子/4回）</p> <p>分娩期の生理的な変化および正常な経過を理解し、分娩時の母児への援助方法を学ぶ。また、この時期にみられる異常について理解する。</p> <p>（25 黒木千恵/1回）</p> <p>授業の主な内容として、妊娠期・分娩期に特有な看護技術を学ぶ。 （4 松宮良子・18 贅育子・25 黒木千恵/6回）（共同）</p> <p>妊婦体験、妊婦の計測、CTG判読、分娩経過について、演習を通して学ぶ。</p>	オムニバス方式 共同（一部）
		母性看護学援助論Ⅱ	<p>（概要）産褥期にある人と新生児に必要な援助の方法を学習する。産褥期の生理的な変化および正常な経過と新生児の胎外生活適応過程を学び、母児ともに順調な子育てに適応するための基礎的な保健指導と母性特有の看護技術を学習し、看護実践能力を身につける。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （4 松宮良子/1回）</p> <p>授業の主な内容として、周産期における看護過程を学ぶ。 （18 贅育子/6回）</p> <p>授業の主な内容として、産褥期・新生児期の生理的な変化および正常な経過を理解し母児の順調な回復・適応についてその援助方法を学ぶ。また、この時期にみられる異常について理解する。</p> <p>（25 黒木千恵/1回）</p> <p>授業の主な内容として、産褥期に特有な看護技術を学ぶ。 （4 松宮良子・18 贅育子・25 黒木千恵/7回）（共同）</p> <p>新生児の観察技術、沐浴技術、産褥子宮の観察技術、看護過程について演習を通して学ぶ。</p>	オムニバス方式 共同（一部）
		母性看護学実習	母性の特性や看護の方法を理解したうえで、周産期や性・生殖に関わる女性とその家族への援助を通して母性看護に必要な基礎的能力を養う。また、各ライフステージの女性の健康を支援する看護を学ぶ。まずは、妊娠・分娩・産褥期にある女性の生理的な経過を理解したうえで、対象に応じた保健指導、看護を学ぶ。新生児については、その生理的な経過を理解しながら、順調な発育を促すための看護を学ぶ。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 精神看護学	精神看護学概論	人間のあらゆるライフステージにおける精神機能の発達と、それに影響を与える諸要因、危機的状況について学習する。また、ライフステージや生活の場から精神の健康問題を捉え、精神の健康を保持・増進、回復するために必要な方法・援助および精神の健康を支える保健・医療・福祉制度のしくみについて学ぶ。さらに、精神医療・看護の歴史の変遷から人権擁護について考え、現代社会における精神保健、精神看護の諸問題について理解を深める。	
	精神看護学援助論Ⅰ	(概要) 精神医学の知識学習を進めながら、精神の健康問題および精神の健康問題を抱える人・その家族を理解し援助するために必要な、それらの症状、検査・治療などに応じた看護の本質・目的・具体的方法について学習する。さらに、精神の健康問題を抱える人が、自己尊厳を保ちながら地域社会で生活するための精神科リハビリテーションとその課題について考える。 (オムニバス/全15回) (5 小林純子/5回) 精神の健康問題を抱える人およびその家族への具体的な看護方法を理解するために必要な、対象の特徴、精神看護学における看護過程と治療的関係、心理社会的アセスメント、精神科リハビリテーションについて学習する。 (19 林和枝/5回) 精神の健康問題を抱える人およびその家族に対して、その疾患・症状に合わせた援助の特徴、必要な援助の方法など、看護を行う上での基礎的な知識について学習する。 (99 大野智裕/5回) 統合失調症、気分障害、神経症など主な精神疾患について、症状、診断、治療などを学習、理解する。そして、現代社会の中で、精神疾患を患う方に対して、看護師としてどのような援助が出来るのかを考える。	オムニバス方式
	精神看護学援助論Ⅱ	(概要) 精神看護学における看護過程と治療的関係を学び、患者－看護師の治療的関係を促進するためのコミュニケーションを習得することを旨とし、ロールプレイングを取り入れた治療的コミュニケーション演習を行う。この過程を通し、自分自身の看護師としてのコミュニケーションの持ち方を分析し、自己洞察に繋げる。また、事例を用いて看護過程演習を行ない、精神の健康問題を抱える人・その家族に必要な看護を具体化する。 (5 小林純子/4回) 精神看護学における看護過程と治療的関係を学び、患者－看護師の治療的関係を促進するためのコミュニケーションを習得する。その基盤となる知識として、精神看護学における看護技術と看護過程、援助関係を構築・発展させる技術および関係の行き詰まりを解決する技術を教授し、演習を実施する。 (⑤ 小林純子・⑫ 林和枝/11回) (共同) 精神科患者の紙上事例を用いた看護過程の演習を小グループに分かれて学習する。また、治療的コミュニケーション技法についてロールプレイングやSST、リラクゼーション法を活用し、演習を通して実践的に学習する。さらにプロセスレコードの記録を通して自己のコミュニケーションの傾向を意識化する機会とする。これらの演習は担当教員二人が学生を2クラスに分けてそれぞれ担当する。	共同 (一部)
	精神看護学実習	精神の健康障害を抱える患者とその家族を理解するとともに、その健康障害により阻害された日常生活の自立を促進するための援助について理解を深め、精神の健康障害を抱える患者に必要な看護が実施できる基礎的能力を身につけることを目的とする。精神科病棟で1人の患者を受け持ち、患者との治療的関係を形成・発展させながら看護過程を展開する。実践を通して、精神の健康障害を抱える患者が、その人らしく地域で生活するために必要な地域精神保健福祉活動について考え、多職種連携の実際を学ぶ。さらに、この実習を通し、精神看護と人権擁護について考察する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	在宅看護論	<p>(概要) 在宅看護の歴史的背景および在宅看護の理念と特徴、在宅看護に活用できる理論について基本的知識を得ることを目的とする。療養者とその家族が在宅を選択する要因および、在宅療養を継続させることの利点および問題点について考察を深める。在宅療養者と家族の健康と生活の支援、在宅療養を支える看護について、学ぶ。地域包括ケアシステムにおける医療と生活がシームレスに、そして、その人らしい生活を組み立てることができるよう、制度と社会資源について理解し、在宅ケアの多職種連携とマネジメントにおける看護職の役割について、創造的に学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (③人見裕江/10回)</p> <p>在宅看護の歴史的背景、在宅看護の理念と特徴、在宅看護に活用できる理論を学習する。さらに在宅療養のメリット・デメリットを理解し、家族が在宅療養を選択し、継続するために、また、療養者の権利擁護を含めて療養者と家族の健康と生活を支援するために必要な看護について学習する。地域ケアシステムにおける多職種連携とマネジメントについて学習する。</p> <p>(⑧尾ノ井美由紀/5回)</p> <p>在宅ケアを支える制度と社会資源について学習する。また、在宅への移行支援として、チームアプローチの仕組みを学習すると共に、在宅ケアサービスの普及に伴う看護師・保健師の役割を学習する。</p>	オムニバス方式
	在宅看護援助論	<p>(概要) 在宅療養者の適切な理解のため、在宅看護における看護アセスメント・看護計画の立案・評価方法を事例を用いて実践する。継続看護における在宅チームケアとの連携についても学ぶ。在宅療養者を対象とした環境整備、安全管理、栄養管理、薬物療法、清潔援助、排泄援助についての演習を通して、在宅看護技術を習得する。また、訪問時のマナーについても学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (12 服鳥景子/4回)</p> <p>在宅という環境における看護展開および看護技術の特徴について理解する。在宅看護過程の展開について基礎知識を得る。療養者の家族アセスメントと家族機能評価方法について学び、在宅看護における家族のあり方について社会的考察力を向上させる。</p> <p>(26 深谷由美/2回)</p> <p>在宅という環境において、療養者に必要な日常生活援助および医療処置を伴う看護援助の特徴について理解し、チームで援助をする視点について学習する。また、訪問看護の基本的態度や面接技術を学び、療養者・家族との関わり方を学習する。</p> <p>(12 服鳥景子・26 深谷由美/9回) (共同)</p> <p>事例を基にして、情報の整理から看護計画立案までの看護過程の展開をグループ討議にて行う。また、講義内容をふまえた在宅看護技術演習(環境整備、安全管理、栄養管理、薬物療法、清潔援助、排泄援助)を行い、看護実践能力を養う。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	在宅看護論実習	<p>訪問看護師と同行訪問し在宅療養者に対する訪問看護師の看護活動の実際を知ることを通して、在宅療養者およびその家族のおかれている状況について理解を深める。健康障害を持ちながら在宅で暮らす人々とその家族の尊厳を守り、その人らしい療養生活の継続に向けた看護のあり方、看護技術について学ぶ。また、地域包括支援センターにおける実習を通して、地域包括支援センターの役割を学ぶ。さらに、地域で療養する人々とその家族を支えるための継続看護に必要な他機関との連携、協働体制・社会資源の活用について理解を深める。これらの学びを通して、継続看護における看護師の果たす役割について考察する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	看護の統合	研究の基礎	<p>(概要) 看護研究は看護専門職としての質的向上と実践能力の向上につながるものである。そのため、看護研究の意義を理解し、研究テーマや文献の検討、研究の方法論・調査方法の理解、研究計画書の作成、論文作成、研究成果の発表など、研究の基礎としての一連の研究プロセスを理解することによって、看護研究を実施するための基礎的能力を身につけ、実践につながる考え方を学ぶ。これらを通して、論理的思考、批判的思考を養い、看護について継続的に探求する素地を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (4 松宮良子/5回)</p> <p>授業の主な内容として、研究の意義、文献検討、研究計画書の作成、論文作成、研究成果の発表などの看護研究の基礎としての一連の研究プロセスを学ぶ。</p> <p>(8 前田尚子/2回)</p> <p>授業の主な内容として、質問紙調査をはじめとする量的研究の考え方とその方法について学ぶ。</p> <p>(6 梅津博紀/1回)</p> <p>授業の主な内容として、実験研究の考え方とその方法について学ぶ。</p>	オムニバス方式
		卒業研究	<p>卒業研究は各科目の授業・演習・実習で学んだことを理論的思考に基づき、実践的に研究の基礎を身につけるために、少人数制のグループの学生を教員が担当し、集団指導と個別指導を実施する。学生は選択した研究課題について、文献検索、文献クリティークを行い、研究計画書を作成し、文献研究したものを論文にまとめる。さらに、セミナーを通して、自らの研究疑問や課題探求の過程で看護観を整理し、看護専門職としての在り方や自らの将来構想、キャリアデザインに結びつける。</p>	共同
		特別支援教育・看護合同演習	<p>(概要) 教育現場における医療的ケアを必要とする子どもたちに対する看護師の看護活動の現状について理解を深める。子どもたちの健康の維持促進のための多職種（教諭と看護師）連携のあり方を考える。重症心身障がい児の身体的健康障がいに対する理解のもとに、演習を通じて特定行為についての技術の方法について考える。また、医療的ケアを必要とする子どもたちに対するそれぞれの職種における役割について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (11 谷口恵美子/4回)</p> <p>医療的ケアが必要な子どもに対する教諭と看護師の連携について、及び医療的ケアの必要な子どもの特性と援助の方法について学ぶ。</p> <p>(1 大見サキエ・11 谷口恵美子・17 高橋由美子・26 深谷由美/1回) (共同)</p> <p>医療的ケア技術演習を行う。</p> <p>(100 安田和夫/4回)</p> <p>特別支援学校における医療援助の運用と課題、保護者や行政、専門医療機関、及び校内の教諭との連携、養護教諭の役割について学習する。</p> <p>(102 松本和久/1回)</p> <p>特別支援教育の理念と法的根拠、推進体制について学ぶ。</p> <p>(1 大見サキエ・11 谷口恵美子・17 高橋由美子・26 深谷由美・100 安田和夫・101 青木廣康・102 松本和久/5回) (共同)</p> <p>特別支援を必要とする子どもたちに実際に接することを通して、特別支援教育及び看護の実践を学ぶ。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
		看護管理論	<p>看護管理は管理者だけでの概念ではなく、スタッフである看護師も、日々管理的視点を持ち勤務することが求められている。看護の多様な場で看護師が果たすべき役割を達成するために必要な看護管理の基本的理論や看護組織、より良い看護を提供するための管理能力と課題について学ぶ。さらに地域社会における健康危機管理の重要性とその方法について学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	看護の統合	災害看護論	災害の種類及び被害・疾患の特徴と国や地域の災害医療支援体制を学び看護職者が果たす役割を考える。災害サイクル各期の特徴とそれに適した看護について考える。また職場や居住地区が被災した場合、自らが被災者であり同時に医療支援者である時の行動について調べ、考察することにより、災害平穩期の看護を考える。	
		国際看護論	(概要) 国際看護の対象の理解および看護の役割について考察することをねらいとする。WHO開発目標の概要と目標設定された経緯について周辺情報を得る。アフリカ諸国や東南アジアなどの発展途上国の現地医療と疾患の発生率および出生・死亡率について関連知識および文化的要因について学ぶ。日本を含めた国際社会の健康福祉支援および災害医療支援の実状を知る。日本国内の外国人患者を取り巻く問題点を挙げ、臨床看護師の役割について討議する。国際的な看護キャリアに関する情報を得ることにより、自らの可能性について考える。 (オムニバス方式/全8回) (12 服鳥景子/6回) WHOの設立意義やその目標、日本に期待される役割について知る。諸外国における福祉・医療制度の現状と文化的背景の関連について考察する。外国人患者に対する看護についての現状を理解し、対策を討議する。国際的に活躍する看護師像を明らかにし、自身のキャリアについて考える機会とする。 (11 谷口恵美子/2回) 国としての国際協力活動と国内外のNGOによる国際協力活動について学習する。それらの実践の紹介を通して、自身の国際看護への関わりを考える。	オムニバス方式
		海外研修	異文化における生活体験を通して国際的な価値観を身につけること、医療施設見学などを通して、国際的視野で看護を考えることをねらいとする。また異なる文化背景を持った対象の理解能力を高める。研修前に事前学習会を2日実施する。現地での海外研修(ホームステイしての語学研修及び看護研修: 本学が既に提携しているオーストラリアのGriffiths大学看護学部を訪問し、看護学生との交流会への参加、老人保健施設訪問等経験する)は2週間とし、研修後発表会1日とする。	共同
		看護教育論	看護学教育の歴史、看護教育制度、社会的背景について学習し、実践の学問である看護学について理解を深める。特に看護学教育の基盤として、看護を学び続ける者、看護を実践する者として基盤となる概念(アイデンティティ、クリティカルシンキング、リフレクションなど)について学ぶ。さらに看護における教授・学習のプロセスや看護学教育に関する研究について学習し、看護専門職としての生涯教育、継続教育の現状と教育のあり方について理解を深める。	
		救急看護	救急看護の対象は、疾病、外傷、脳血管障害、中毒などの多種多様な疾病・外傷を有したあらゆるライフステージの患者とその家族である。看護師には、病態の緊急度・重症度を基軸として、少ない情報から患者の状態を判断し急激な状態変化に即応した看護のあり方について学ぶ。緊迫した場面における医療職者間の連携のあり方や状況判断についても考える。救急看護の対象である患者及び家族の尊厳を守り、抱える不安に対する理解のもとに救急看護における看護師の役割と責務について学ぶ。	
		SPP技術指導演習	これまで学習した看護技術について、後輩に指導するという立場に立ち、看護技術演習の指導案の作成(計画・実践・評価)について学習し、小グループでこれまでの実習で学んだことをもとに事例を用いて場面構成した指導案を作成する。基礎看護学実習Ⅱを学ぶ前の2年生を対象に指導し、自分たちが2年生に対して指導したことについて自己評価する。これらを通して、今後の看護技術向上の動機づけとともに、人に伝えることのスキルを磨く機会とする。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護の統合	多職種連携実践演習	4年次までの講義や演習・実習で学習したことについて、実際連携する場合においてはどのようなことが必要かを、1年次に学習した多職種連携の講義やこれまでの課題を踏まえ、小グループに分かれて事例をあげて実際演習を通して学ぶ。看護学生は看護専門職として自覚し、役割を説明することができ、相手との共通理解がどのようにして成立するのか、情報共有には何が必要か等を学ぶ。他学部の学生、特に教育学部特別支援教育専修や保育専修の学生の参加によって、職種を越えた連携の在り方について考え、全体で発表し、学びを共有し、多職種連携の基礎的能力を身につける。特に保健師課程、養護教諭課程選択の学生は必修とする。	共同
	終末期看護実習	終末期にある療養者が安らかな死に向かうために心の安寧を支援する仏教精神をもとにした緩和ケアの支援体制と看護師の役割及び多職種協働の実際について学ぶ。	共同
	継続看護実習	外来に定期的に受診する患者、入院前の患者、退院後の経過観察の患者の特徴と看護の役割を理解するとともに、地域連携室での看護師の役割、継続看護の意義と重要性を学習する。また、外来で実施されている医師の診察時の補助、各種検査や処置、糖尿病教室等での指導見学、がん化学療法や放射線療法および日帰り手術を受ける患者等に対する看護を学ぶ。さらに、近年臨床の場に導入されつつあるPFM (Patient Flow Management) システム (入院から退院まで一貫した支援) について学習する。グループでの学びを共有することにより、患者の最善の利益を考えた外来システムのあり方について考える機会とする。	共同
	統合看護実習	これまで学習した看護の知識・技術・態度について総括するために、各自がやりたいことややり残したこと、追求したいことについて、目的、目標を明確にし、実施計画に基づいて臨地で看護を実践、評価し、課題を明らかにすると共に各自の看護観を整理する。また、看護管理者と行動を共にし、看護管理の実際を見学することで、看護管理者の役割と責務について学習し、マネジメントの基礎的能力を身につける。	共同
専門科目	公衆衛生看護学	<p>(概要) 公衆衛生看護の基本理念、歴史の変遷を知ることで、意義・目的、その対象、構成する領域、役割について学ぶ。また、公衆衛生看護活動の基盤となるヘルスプロモーションなどの理論、考え方を深め、地域保健活動における、地域診断過程、地域保健管理、健康危機管理を学び具体的なグループ支援や地区組織活動へと展開していく。さらに、地域の社会資源や制度、住民を取り巻く環境を理解した上で、地域保健活動の手段である健康相談・健康教育・家庭訪問などの技術を用いた発達段階に応じた保健サービス、精神・障害・精神保健・感染症・歯科などの健康課題に対応した保健活動、災害時の保健師活動の概要を学ぶ。これらの保健活動の倫理的問題や今後の課題・展望を考えていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (⑧) 尾ノ井美由紀/7回) 公衆衛生看護の歴史の変遷や社会環境の変化にどう影響を受けてきたかを知ることにより、定義・目的・役割を理解する。また、ヘルスプロモーションなどの理念を理解することで、健康における予防の考え方、公衆衛生看護活動の基本を学ぶ。地域で生活する人々の健康課題など現状に目を向け、解決するための各種保健活動や社会資源の施策化、システムあ課などの支援環境づくりを学ぶ。地域で活動する看護職の役割と連携についての課題を考えることができる力を養う。</p> <p>(⑬) 古澤洋子/8回) 母子・成人など発達段階別の対象に応じた公衆衛生看護活動の歴史的経過、法的根拠を知り、保健活動の役割、健康課題に応じた看護活動について学ぶ。看護活動のコアとなる家庭訪問、健康教育、健康診査の技術など具体的な活動を通して、公衆衛生看護の現状と課題を考える。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	<p>(概要) 社会集団や個人を対象とした公衆衛生看護の基本理念と目的を理解し、活動の根拠となる理念・健康行動やヘルスプロモーションの理念に基づき、地域社会生活の場における健康課題別・発達課題別に応じた公衆衛生看護活動を説明できることを目的とする。援助提供の場や対象者に応じた相談や教育などの予防的介入を基盤とした看護活動を通して、地域における看護職の役割・機能を演習を通して学習する。 (オムニバス方式/全15回) (⑧ 尾ノ井美由紀/5回) 住民の家庭、社会生活の場において、提供するところの公衆衛生看護技術援助方法を理解し、援助提供の場に応じた保健師の役割・機能を学習する。健康問題ごとに感染症、精神障害者などそれぞれの対象者の生活・実態を知り、その為の保健福祉施策と看護活動の展開方法を理解し保健師の役割・機能を学習する。 (⑬ 古澤洋子/5回) 発達段階やライフサイクルと健康問題ごとに、行政サービスとしての看護援助提供方法を学習する。 (⑬ 古澤洋子・⑭ 森礼子/5回) (共同) 公衆衛生看護技術援助方法として、様々な場における保健指導の具体的な進め方を演習を通じて学ぶ。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	<p>(概要) 公衆衛生看護活動を展開する上での法制度や地域保健行政制度に基づき行われている健康支援や予防活動、健康政策の実際を知る。公衆衛生看護活動の展開方法として、地区診断・地区活動計画の立案、看護活動の実際・評価を把握する。演習を通して、地域の健康課題を把握し施策化するとともに、集団・および地域社会を対象とした公衆衛生看護活動、地域ケアシステムづくりを行うための専門知識・技術を学ぶ。 (⑧ 尾ノ井美由紀/3回) 公衆衛生看護活動の中でも特徴的な集団や地域社会を対象とした看護活動を行うための基礎的能力を養う。対象を個人から集団・地域へと視野を広め、地域診断、計画、実施、評価の一連の過程、地域看護管理を学び、保健師の役割を理解する。 (⑬ 古澤洋子・⑭ 森礼子/12回) (共同) 地域で生活をする住民を対象とする公衆衛生看護活動において、なぜ地域看護診断が必要か、どのように地域を捉えていくのか、地域に必要な健康増進施策は何か、保健事業をどのように計画をしていくのか、過程をふまえて学習を深める。さらに、対象を個人から集団・地域へと視野を広め、地域診断、計画、実施、評価の一連の過程を学び、保健師の役割を理解する。</p>	共同 (一部)
	学校保健	<p>子どもたちの心身の健康は家族、地域社会、環境等に影響を受け、幅広いニーズが求められている。これら踏まえて、学校教育における学校保健活動の法的根拠および概念と枠組みについて理解する。さらに養護・看護の役割・機能・活動を理解するとともに、児童生徒の心身の発達や健康問題を小児保健、精神保健を踏まえて学習し、健康教育、安全管理のもと安全教育について、特に感染予防としての予防接種、感染症発症時対応、事故防止について学ぶ。</p>	
	養護概説	<p>講義によって養護教諭の職務を理論的に理解し、演習やロールプレイ、発表等によって養護教諭の執務を実践的に理解する。子どもたちを取り巻くさまざまな問題に対して、個への捉えと援助だけでなく、組織への働きかけにも視点を置き事例の中で考察を深める。また、子どもたちとの関わり作りや心の捉えとして心理テスト(心理表現)にも触れる。</p>	
	健康相談活動	<p>健康相談活動の意義と目的を講義によって学び、心身の発達及び健康の諸問題とその背景を捉え、多様な健康問題に対応できる実践力を、ロールプレイングや事例研究を通して身につける。また、グループ討議によって自己理解や他者理解を深め、今後取り組むべき課題を明らかにする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	公衆衛生看護学実習Ⅰ	学校現場の中で、成長発達する生徒の心身の健康実態について理解を深め、児童生徒への関わりと支援のあり方を学ぶ。学校保健活動が学校内だけでなく、家庭及び地域社会と連携・協力して行われている実際を学び、学校保健計画に基づき組織的に行われている保健活動であることへの理解を深める。養護教諭が行う保健室経営の実際を学び、学校保健活動の中で養護教諭が果たす役割を考察する。また児童生徒への保健教育の内容と手法、技術を学び、実践につなげる。	共同
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	実習地域の健康課題を把握し、実習施設（保健所、市町の保健センター等）で取り組まれている保健事業や公衆衛生看護活動との関連について考察し、地域住民の健康を支援する保健師の役割を理解する。また、看護専門職として、住民の健康増進に寄与できる能力を身につける。ライフステージや健康レベル、成長発達段階に応じた保健指導を学ぶ。対象者とその家族の生活の場に家庭訪問することで、介護・育児を継続できるよう、家族の介護力・育児能力の向上を目指し、セルフケア行動を支援する。	共同
	公衆衛生看護学実習Ⅲ	働く人々の労働環境や健康状態、生活実態を把握し、労働条件・環境に関連する健康障害の予防を目的に組織的に展開される産業衛生対策・労働衛生管理の実際を学ぶ。また、健全な職業生活を支える産業看護活動と看護職の役割および保健指導の実際について学ぶ。これらの学びを通して、産業保健における看護職の果たす役割について考察する。	共同
教職科目	教師論（中等）	教師という職務の性質や社会的な意義など、教師という専門的職業の基本的な事項を理解し、ディスカッションをしながら理想の教師像を描いていく。以て大学で教育について学ぶことの土台となる授業とする。	
	教育基礎論（中等）	教育を学ぶ上での基礎・基本ともいえる事項について、法令等を通して学ぶとともに、学校現場で実際に起きている諸問題について意見交換を行うなどして、教育の理念や現状を理解する。	
	教育心理学（中等）	教師が教育を行うなかで必要となる人間の発達と教育との関連、学習のメカニズム、人間の知的機能の概略、動機づけの過程と意欲を引き出す働きかけ、学級経営上考慮すべき人間関係といった諸問題について取り扱うこととする。また、授業内で学習内容に関する課題を出す場合がある。	
	発達心理学（中等）	この講義では、様々な視点から人間の乳児期から老年期という生涯にわたる発達を眺め、その中で思春期・青年期の特徴についての理解を深めていく。また学校現場で生じやすい児童・生徒の問題を取り上げ、発達の知見に基づきよりよい教育環境について考察していく。	
	障害児教育学（中等）	まずは特別支援教育その成り立ちと内容を学習することとする。そして具体的にどのように特別支援教育計画や個別指導計画を立てていくかを学習する。教育の現場に立った際に自らそれらの計画を立てられるようになることを本講義は目的としている。	
	教育社会学（中等）	はじめに教育と社会がどのように関わっているのか、社会学的視点とは何かを説明したうえで、とくに中等教育においてかわりのある、(1)学校のある社会、(2)ジェンダーと教育、(3)家族・地域・教育を具体的テーマとして取りあげ、データを提示しながら諸理論を概説していく。また、受講者自身が他の受講者と意見交流をしながら、学校教育および教育と社会について考察したり、教育の実際について調べたりする活動も行う。なお、毎回、事前準備に関する小テストを行い、履修者のレディネスをチェックする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	教育の社会制度論（中等）	本講義は、学校教員の日々の教育活動を下支えする公教育制度について、その根拠となる法的規定を読み取りながら理解する。矢継ぎ早に出される教育行財政改革、めまぐるしい法改正の中で、国はどのように教育の舵取りをしようとしているのか、教育委員会や学校はどのような変革を求められているのか、一連の教育改革が、公教育の中心に位置づく子どもにとってどのような形で作用するのかを見ずえることで、将来学校教員として職務に従事する上での備えをする。特に、公教育のあり方をめぐって、これまでどのような論争が繰り広げられたのかを理解するとともに、「選択の自由」「個性の尊重」の背後にある国の新たな統制の形について、自身の見聞や経験を振り返りながら問題の所在を考えていく。その中で、近年の官邸主導の教育改革路線、地方分権・規制緩和の流れの中で模索されている文部科学省と教育委員会の関係の変化、評価にさらされる学校経営など、諸側面を具体的に取り上げる。	
	教育行政学（中等）	学校制度をはじめ、地方教育行政制度、教職員の制度、義務教育費国庫負担制度、教科書検定制度などを対象に、教育政策がいかに形成され、法制化され、運用されているのかを理解する。そのため、『教育六法』を中心に、中教審の答申や国の政策提言、新聞記事等の報道、地方公共団体の取組み事例や過去の判例等も参照していく。 また、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、フィンランドなど、代表的な先進諸国の教育行政の歴史的展開を俯瞰するとともに、公教育制度の概要理解を通じて、我が国の公教育制度を相対化して見る。	
	教育課程論（中等）	教育課程の意義と編成方法について学ぶことを目的とする。生徒の人格的発達を保障するという中等教育の課題が学校の現場でどのように計画され、実践されているのかを具体的に検討していく。本講義は、教育課程について理論的・実践的・国際的な観点において幅広く考察し、何のためにどのような教育を行おうとしているのかについて各学校の教育課程における教育実践を通して学ぶ。	
	道徳教育の指導法（中等）	今日、学校現場では子どもの実態等から道徳教育の充実が求められている。また、道徳の教科化がされようとしている。その要因や背景を理解し、「学校における道徳教育の在り方」をテーマに、その核となる道徳の目標及び内容や指導の観点について学ぶ。特に力点をおくことは、実際の道徳の時間の指導を具体的にどのように実践するか（学習指導案の書き方、授業展開等）を演習や授業観察等を通して理解する。この授業を通して教師としての道徳の実践的指導力を身に付けさせる。	共同
	特別活動の指導法（中等）	学習指導要領（特別活動）の意味と意義を理解する。さらに、「生きる力」を身に付けるためには、特別活動のみならず総合的な学習の時間や道徳の時間等と有機的連携を図る必要がある。それらの実践的運用のための指導計画の作成・運営力を養う。	
	教育情報方法論（中等）	本講義は、教育の情報化の現場の実態に合わせて講義・実習・発表・省察を繰り返し実施する。授業ごとに課題があり、それら課題の提出は電子ファイルで行う。電子黒板を使った模擬授業やデジタル教材制作の方法論など、可能なかぎり現場の実態にそって具体的に教育の情報化を紹介する。	共同
	教育評価（中等）	教育評価の諸問題について、より詳細かつ理論面に重きをおいて理解を深める。評価すること、されることから生じる学習者、教員への影響を、統計学・心理学などの知見も踏まえて概観する。	
	生徒指導論	生徒指導の基本的な考え方や対応の在り方について、様々な具体的事例を通しながら理解していく。生徒指導を「生き方」指導と捉え、食育指導や家庭・地域との連携の在り方も含めて進める。	
	教育相談（中等）	現在、中学校では「いじめ」問題、不登校、非行、薬物等、リストカット、摂食障害など生徒の生命・健康に関わる多様な問題に直面している。本講義では、これらの問題について概説し、教育相談を行うに当たり必要なかわり方及び連携の仕方について理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	臨床心理学（中等）	「心のひだ」まで感じる臨床心理学的感性、知識を背景に置きつつ、思春期・青年期・中年期の心の発達とその歪みの中から出てくる不適応症状をしっかりと捉えられるようになることを目標とし、目標達成のために、臨床事例、Videoを多用した講義を進める。	
	養護教諭実習特講（事前事後）	（事前指導）実習に関する心得、マナーを習得すると共に養護教諭に必要な資質について理解し、自分なりの目標を持つ。（事後指導）実習の振り返りと学びを共有し、望ましい養護教諭の在り方について考察を深めると共に、今後取り組むべき課題を明らかにする。	
	養護教諭実習	実習期間である9月は、集団活動におけるまとまりや高まり、個の成長の成果を求める取り組みが多くなる。同時に、1年の中でも児童生徒が、心の躓きを持ちやすい時でもある。また、疾病予防や健康の保持増進においても、個別及び集団への健康教育への活動が仕込まれるであろう。そのような時期、これまで学んだことを実践の場で確かめるとともに、実践の中において養護教諭としての課題を明らかにし今後の研究につなげる。	
	教職実践演習（養護教諭）	<p>（概要）学校現場が抱える課題に対して、養護教諭としてどのように向き合っていくか、講義、演習、グループ討議、ロールプレイ、リベートなど多様な方法で検討を深め実践力を身に付ける。専門性に基づいた活動的知識・機能を磨くだけでなく、自己理解や他者理解を通して、自らの養護教諭の在り方を捉えなおす。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（43 小林直樹/2回） 児童生徒はもちろん、保護者や地域住民とも接する機会の多い養護教諭として、幅広く深い教養と総合的な判断力、実践力を身に付けるために、学校が地域コミュニティーの拠点としての大きな役割を担っていることや、人権教育や生徒指導の在り方について様々な事例を通して習得を図る。</p> <p>（44 譲西賢/1回） 小学校での不登校児童とASD(自閉症スペクトラム)の2児童を想定して、事例検討を主とした模擬ケース会議をグループ討議で行う。児童への①見立て②支援目標③手立てを具体的に明確にする能力を養うことを目的とする。</p> <p>（57 中島葉子/1回） 学校で起きる様々な学校安全上の諸問題に対する対応および危機管理のあり方について、これまでの実習で経験したことおよび講義で学んだことを振り返りながら、いくつかの事例をもとにして重要事項を確認し、また教師の対応について議論する。評価については、授業時間内に取り組むいくつかの課題の成果に応じて実施する。</p> <p>（103 飯田孝栄/11回） 養護教諭の専門性に基づいた活動的知識・機能を磨くだけでなく、自己理解や他者理解を通して、自らの養護教諭の在り方を捉えなおす。</p>	オムニバス方式